

平成 27 年 度

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

平成27年度 業務年報

目 次

I 大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1 農林水産研究指導センターの組織	1
2 試験研究課題の重点化と評価の徹底	2
3 情報発信機能の強化	5
4 試験研究機関の連携推進	5
5 研究員の資質向上	6
6 農林水産研究指導センター研究状況報告及び知事報告	9
7 知的財産権の取得状況	9
8 大学との連携	10
9 受賞、学位取得の状況	11
10 主要な行事・会議等	11
11 各所属の業務・試験研究	12
12 予算概要	13
II 研究部・グループの概要	14
1 農業研究部	14
2 水田農業グループ	26
3 果樹グループ	30
4 花きグループ	35
5 畜産研究部	40
6 林業研究部	46
7 きのことグループ	50
8 水産研究部（浅海・内水面グループ含む）	57

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した。その後の農林水産業を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及をめざして研究指導體制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。また、環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編するとともに、効率的・効果的な研究開発を行うため、チーム制を導入した。さらに、センター本部を豊後大野市に移し、全体を統括するセンター長と総務予算担当、研究企画担当を配置した。

平成23年4月に宇佐市から農業研究部の土壌・環境チームと病害虫チームを、6月にはイチゴチームを豊後大野市に移転した。また、平成25年4月より、農業研究部の「ネギ類チーム」を、「ネギ・イモ類チーム」に、畜産研究部の「豊後牛改良チーム」を、「肉用牛改良肥育チーム」に、「肉用牛・酪農チーム」を、「肉用牛繁殖・酪農チーム」に名称変更した。さらに、畜産研究部の家畜伝染病防疫体制強化を図るため、新たに種雄牛舎を建設し、「種雄牛チーム」を新設した。

今後も引き続き、研究員自らが普及指導員等と一緒に生産現場に赴き、開発した技術を生産者へ指導、技術実証を行うなど、普及指導體制の強化に取り組むこととしている。

なお、本部の主な業務は、試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、共同研究調整、知的財産取得・活用、課題評価・成果公表、研究員の資質向上、産学官交流・連携促進である。

組 織

農林水産研究指導センター本部

(総務予算担当、研究企画担当)

(本部：豊後大野市)

農 業 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、土壌・環境チーム、病害虫チーム、イチゴチーム、ネギ・イモ類チーム、トマト・ピーマンチーム、茶業チーム)

水田農業グループ

(管理担当、企画指導担当、作物品種チーム、作物栽培チーム)

果樹グループ

(管理担当、企画指導担当、温州ミカンチーム、カボス・中晩柑チーム、ナシ・ブドウチーム)

花きグループ

(管理担当、企画指導担当、花きチーム)

畜 産 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、種雄牛チーム、肉用牛改良肥育チーム、肉用牛繁殖・酪農チーム、飼料・環境チーム、豚・鶏チーム)

林 業 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、森林チーム、木材チーム)

きのこグループ

(企画指導担当、きのこチーム)

水 産 研 究 部

(管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム)

浅海・内水面グループ

(管理担当、浅海チーム、内水面チーム)

農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

平成27年5月1日現在

機関	事務吏員	技術吏員					技労職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究指導センター本部	3		6			6		9
農業研究部	5	35	1	3		39	7	51
水田農業グループ	3	9	1	1		11	5	19
果樹グループ	1	15	1	2		18	6	25
花きグループ	1	7	1	1		9	2	12
畜産研究部	5	22	2	3		27	25	57
林業研究部	2	11	1	1		13	2	17
きのこグループ		6	1	2		9	1	10
水産研究部	3	16	1		7	24		27
浅海・内水面グループ	2	11	1			12		14
合計	25	132	16	13	7	168	48	241

2. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

現場ニーズに即した試験研究を効率的に実施するため、研究課題数を概ね100課題に厳選し、研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間とした。

研究課題の設定や進行管理に当たっては、内部・外部評価を厳格に行い、評価結果や進捗状況を公表した。

(1) 評価の種類別対象課題

1) 事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、予算要求を行う事前の段階において新規候補課題のすべてについて、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性など全ての観点から評価を得て、課題実施の適否について判断した。

2) 事後評価

試験研究結果について検証し、現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、試験研究終了の翌年度に研究目標等に対する達成状況について評価を得た。

(2) 各研究部内新規試験研究課題検討会（外部評価委員会専門部会：5月29日～6月30日）

現場ニーズにあった試験研究計画とするとともに、試験研究結果について検証し、現地移転を促進した。開催は各研究部、グループ単位で行い、研究員、生産原課の担当職員、普及指導員、生産者代表等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

また、本検討会に専門分野からの技術的アドバイスを受けるため学識経験者、生産者、消費流通関係者等で構成する外部評価委員会専門部会員の出席を求め、新規研究課題に関して「技術的達成の可能性」について、「目標設定の妥当性」、「目標達成のための手法」の観点から意見をもらった。

平成27年度農林水産研究指導センター外部評価委員会専門部会

委員会 開催日	部 門	外 部 評 価 委 員 会 専 門 部 会 員		
		所 属 名	職 名	氏 名
6月19日	野菜 ・茶業	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 農業環境科学	准教授	尾崎 行生
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	暖地野菜花き 研究調整監	沖村 誠
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畑作研究領域 畑輪作研究グループ	上席研究員	安達 克樹
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 枕崎研究拠点	主任研究員	吉田 克志
6月11日	病害虫	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害研究グループ	上席研究員	大貫 正俊
		一般社団法人 九州病害虫防除推進協議会	常務理事	山中 正博
6月15日	土壌環境	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 生産環境科学講座	教授	和田 信一郎
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域	上席研究員	古賀 伸久
6月15日	水田農業	三和酒類株式会社 三和研究所	所 長	高下 秀春
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 農業生物科学講座	教 授	望月 俊宏
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	上席研究員	住吉 正
6月17日	果 樹	国立大学法人 鹿児島大学 かごしまCOCセンター(地域活性化センター)	特任教授	富永 茂人
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 カンキツ研究口之津拠点	カンキツ 研究調整監	塩谷 浩
		大分県果樹生産者協議会 (大分県柑橘研究会)	会 長 (会 長)	木村 房雄
5月29日	花 き	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作・園芸研究領域	主任研究員	今村 仁
		東海大学 農学部 応用植物科学科 蔬菜花卉園芸学研究室	教 授	田中 孝幸
		宇田花づくり研究所 (株)大阪鶴見フラワーセンター 花の研究室)	代 表 (室 長)	宇田 明
6月2日	畜 産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物科学講座 家畜生産生態学分野	准 教 授	後藤 貴文
		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	畜産草地 研究領域長	梶 雄次
		公益社団法人 大分県畜産協会	専 務 理 事	佐藤 信行
6月30日	林 業	国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 森林動物研究グループ	グループ長	矢部 恒晶
		国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座	准 教 授	藤本 登留
6月16日	きのこ	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 環境農学部門 森林環境科学講座	教 授	大賀 祥治
		国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	主任研究員	宮崎 和弘
6月22日	水 産	国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 資源生物科学部門 動物・海洋生物科学講座	教 授	松山 倫也
		国立研究開発法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部	部 長	北村 章二
		国立研究開発法人 水産総合研究センター 増養殖研究所 育種研究センター	センター長	薄 浩則

(3) 試験研究推進本部会議並びに試験研究企画評価会議(内部評価)

(8月6日：畜産部門、林業部門、水産部門、 8月10日：農業部門)

農林水産部長、審議監、県庁生産原課の課室長、農業大学校長並びに農林水産研究指導センター長で構成する試験研究推進本部会議と総務部・企画振興部・生活環境部の総務企画監、商工労働部の産業企画監、産業科学技術センター企画連携担当総括並びに農林水産部構造改革企画監、流通企画監で構成する試験研究企画評価会議を開催し、事前、事後評価対象研究課題について評価を受けた。

(4) 外部評価委員会(外部評価)：9月1日

経済界や大学の学識経験者、流通関係者や生産者代表をもって構成する外部評価委員により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的効果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

平成27年度 大分県農林水産部試験研究外部評価委員

分野	委員名	役職等	選 定 理 由
経済界・学識	武田 浩	(株)日本政策投資銀行大分事務所長	地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。
	森 宗一	別府大学経営学部講師 (経営戦略論) (中小企業論)	大分県普及指導協力委員(H26～)。普及員や集落営農法人に対する研修、講演、指導経験が豊富。現場学者、理論学者としての確かな評価、助言が期待できる。
流通関係者	長尾 喜久男	京都青果合同(株)執行役員部長	大分県マーケティングアドバイザー。大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	立石 弘司	イオン九州(株)産地開発部長	大分県マーケティングアドバイザー。大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
	藤澤 政則	大分一村一品(株)代表取締役社長	県内におけるマーケティングに携わる最前線の立場から技術開発の必要性等について評価が期待できる。
生産者代表	大窪 勉	小ネギ生産者	大分”味一ねぎ”生産部会副部会長、葱屋おおくぼ(有) 代表取締役
	近藤 和義	肉用牛経営者	県議、大分県畜産協会会長、おおいた森林組合長、元大分県指導農業士会会長
	田島 信太郎	林業経営者	田島山業(株) 代表取締役
	渡邊 英敏	小型底曳漁業者	大分県漁業士連絡協議会長、元大分県漁業協同組合宇佐支店運営委員、元大分県漁業協同組合青年部長

(5) 平成28年度研究課題の決定

内部評価で総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題については、次の外部評価に進み、60点未満のものについてはこの時点で外部評価対象課題から除外する。今回内部評価を受けた課題数は20課題で、60点未満のものはなく、全課題が外部評価対象課題となった。

外部評価発表課題は原則、新規課題を対象とし、新規課題の無い研究部においては継続新規課題を対象とした。また、新規課題の多い研究部については、研究としてアピールの必要がある課題を対象とした。外部評価で総合60点以上の評価を得た課題については、平成28年度予算要求課題に決定し、60点未満のものについては内部評価会議の結果を踏まえて、最終的にセンター長が研究課題として採択の可否を判断する。今回外部評価を受けた課題数は9課題で、すべて総合得点60点以上であった。

28年度の新規候補課題数は20課題であり、全課題を平成28年度予算要求課題として採択した。

(6) 評価制度の見直し

主要な見直しとして、外部評価委員会専門部会を廃止して新たにアドバイザーを置き、各研究部の内部会議に招集するなど柔軟な対応が可能となるように見直しを行った。

3. 情報発信機能の強化

研究成果を「研究 Now」と題してホームページに掲載し、研究内容を分かりやすく紹介した。

vol.	公表日	所属	タイトル
39	平成27年4月3日	果樹グループ	ナシの有望品種「あきづき」の収穫適期を明らかにしました
40	平成27年4月9日	水産研究部	ヒラマサの養殖振興にむけて ～種苗生産技術の開発～
41	平成27年6月2日	農業研究部	イチゴの子ビクロバネキノコバエ幼虫に有効な薬剤
42	平成27年7月27日	花きグループ	施設内の環境制御でバラの生産性向上を目指す!
43	平成27年8月4日	農業研究部	夏場のニラを守る! 決め手は部分遮光
44	平成27年9月24日	きのこグループ	農業用アシストスーツの実証試験～原木シイタケ栽培の軽労化に向けて～
45	平成27年11月19日	林業研究部	県産材で直交集成板(CLT)をつくる
46	平成27年12月7日	農業研究部	年間収入を補う秋冬番茶2回摘採技術!
47	平成28年1月	水田農業グループ	被覆植物(グランドカバープランツ)と作業道の活用で水田の畦畔管理を省力化する!
48	平成28年2月15日	畜産研究部	ローズ芯面積県内歴代1位!! 肉質・肉量に優れた糸桜系の種雄牛「神寿平」誕生!
			「糸竜」の母方系統「ひさとみ系」の血を継ぐ肉質・肉量に優れた種雄牛「桜久富」誕生!
			肉量、肉質に優れた全国トップクラスの種雄牛「桜花園」誕生!
49	平成28年2月29日	浅海・内水面グループ	ブロックを使ってヒジキを増やそう! ～ヒジキ増殖の取り組み～
50	平成28年3月31日	果樹グループ	屋根かけ完熟栽培による温州みかんの高付加価値化

4. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関が総合的かつ有機的な連携を図るため、衛生環境研究センターと産業科学技術センターとで大分県試験研究機関連携会議を平成22年度に設置し、研究員の交流、意見・情報交換の推進、試験研究機器の相互有効活用の推進、研究の連携推進等を行った。

5. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部	研究員 田中 啓二郎	(国)農研機構 中央農業総合研究センター	茨城県	H27.9.7～11 (5日間)	遺伝子診断を中心とした植物の ウイルス病診断に関する技術習得
花きグループ	主任研究員 米田 恵美	(国)農研機構 中央農業総合研究センター	茨城県	H27.9.29～10.23 (25日間)	キク茎えそウイルスを簡易に検定 する迅速免疫ろ紙検定法(RIPA 法)の習得
畜産研究部	主幹研究員 飯田 賢	(公社)畜産技術協会 附属動物遺伝研究所	福島県	H27.11.24～12.11 (21日間)	黒毛和種におけるゲノム選抜手 法の習得
林業研究部	研究員 長尾 嘉昭	(国)森林総合研究所 九州支所	熊本県	H27.9.2～11.20 (延べ20日間)	ニホンジカの生態および個体数 管理の知見習得
きのこグループ	主幹研究員 飯田 千恵美	高崎健康福祉大学	群馬県	H27.9.9～11 (3日間)	乾シイタケの官能評価ときのこ類 の有用成分の分析に関する知識 及び技術の習得
水産研究部	主任研究員 林 亨次	(国)水産総合研究セン ター 日本海区水産研究所	京都府	H27.11.16～19 (4日間)	ワムシ培養技術の習得
	主任研究員 金澤 健	(国)水産総合研究セン ター 瀬戸内海区水産研究所	広島県	H27.6.29～30 (2日間)	タイラギの種苗生産及び増養殖 技術に関すること
浅海・内水面グ ループ	研究員 崎山 和昭	(国)水産総合研究センター 中央水産研究所	神奈川県	H27.9.28～30 (3日間)	ハモ等の耳石分析および資源解 析技術の習得

(2) 長期派遣研修

なし

(3) 新規採用研究員現場体験研修

所 属	職・氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部	研究員 森崎 章好	農業生産者	豊後大野市	H27.11月 (延べ9日間)	みつば水耕栽培
水田農業グループ	研究員 柿原 千代文	農業生産者	宇佐市	H27.7月～11月 (延べ14日間)	水稲栽培(田植え、稲刈り)ほか
果樹グループ	研究員 高倉 晏希子	農業生産者	日田市	H27.7月 (15日間)	ナシ栽培
畜産研究部	研究員 波津久 香織	養鶏農家	県内	H27年5月～H28年1月 (延べ15日間)	養鶏管理作業
林業研究部	研究員 藤田 紘史郎	農業生産者	日田市	H27.8月～11月 (延べ15日間)	苗木生産
水産研究部	研究員 大竹 周作	水産業者2戸	臼杵市 佐伯市	H27.8月～H28.1月 (延べ15日間)	ブリ養殖、貝類養殖
浅海・内水面グループ	研究員 山本 宗一郎	リ養殖漁業者	中津市	H27.10月～H28.2月 (延べ5日間)	リ養殖漁業

(4) 若手研究員研修

若手研究員に対して、本県の農林水産業を取り巻く情勢、他研究部・グループでの研究内容及び研究に対する心構え等について理解を深めるとともに、先輩研究員からの講演をとおり、若手研究員の意欲を高め、幅広い観点から試験研究遂行能力の向上を図るため研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
H27.7.22	県庁本館8階 81 会議室	概ね35歳以下の 若手研究員 28名	講話①「研究者の使命…研究意欲の源」 講師 福田 穰(水産研究部 専門研究員) 講話②「県職員として期待されるもの」 講師 幸 清二(農林水産企画課 総務調整監) 講演③「商品づくりの視点について」 講師 中野 伸哉(プロデューサー) 講演④「県の研究機関の強み」 講師 林 浩昭(研究指導顧問)

(5) 中堅研究員研修

中堅研究員を対象に、民間企業や関係機関の方との意見交換をとおり、視野を広げ、試験研究企画及び自己開発能力の向上を目的に研修を行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
H27.6.26	全労済ソレイユ	概ね35歳以下の 若手研究員 25名	講演 演題「ICTを活用した農業経営」 講師(有)フクハラファーム代表取締役 福原昭一 氏 農林水産研究指導指導センター研究成果報告 演 題「環境にやさしい総合防除技術の開発」 報告者 岡崎真一郎 主任研究員

(6) チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H28.1.27	県庁新館8階 81会議室	チームリーダー及び企画指導担当総括 28名	講演 「研究チームのマネジメント」 講師 別府大学 国際経営学部 森 宗一 氏

(7) マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H28.3.17	大分大学 産学官連携推進機構セミナー室	研究員等 10名	講演 「水産物における水銀とセレン」 講師 大分大学 工学部 甲斐徳久 教授

(8) プレゼンテーション研修

なし

(9) 数理統計研修

試験研究を行っていく上で、基礎的かつ重要な数理統計について、農林水産試験研究における基礎的な手法の習得とあわせて、現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H27.12.7～9	県庁新館 OAプラザ	研究員等 11名	「統計学概論」 講師 独立行政法人 農業環境技術研究所 生態系計測研究領域 上席研究員 三中 信宏 氏

(10) 知的財産研修

知的財産は新たな付加価値を創出し、ブランド化や産地間競争での優位性を高めるとともに、共同研究や競争的研究資金を獲得する上で有効なものである。

平成27年度は、下記研修の他、工業振興課が主催する知財研修に研究員等を派遣した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
H27.8.28	ホルトホール	研究員等 延べ10名	特許庁主催の知的財産権制度説明会(初心者向け)を活用し、知的財産権に関する知見を深めた。

6. 農林水産研究指導センター研究状況報告会及び知事報告

試験研究活動や成果を知事・副知事及び県庁職員へ広く情報を提供するために実施した。

○研究状況報告会、知事報告の開催状況について

年月	場所	課題	主な聴講者
27年8月24日	県庁舎本館 81会議室	①夏秋トマトの総合的な裂果対策技術 (農業研究部 トマト・ピーマンチーム 研究員 大塚 美希 8/24) (農業研究部 " 主幹研究員(TL) 山田 晴夫 9/7)	副知事、部長、 審議監、関係課室長、 センター長他 (計 約50名)
27年9月7日	知事室 第一応接室	②「豊味の証」豊後牛肉生産技術の確立 ～ 飼料米給与による高オレイン酸含有牛肉生産技術の確立～ (畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム 主任研究員 矢崎 竜) ③豊予海峡周辺におけるマアジの産卵生態 (水産研究部 栽培資源チーム 研究員 中尾 拓貴)	知事、部長、審議監、 センター長、所属長、 研究普及課長ほか
28年1月8日	県庁舎本館 91会議室	①中山間地域を中心とした畦畔管理の省力・低コスト技術の開発 (水田農業グループ 作物栽培チーム 主幹研究員(TL) 近乗 偉夫) ②エコмам(輪ギク)年4作生産方式の実証 － エコмам効率生産・流通体系の実証 － (花きグループ 花きチーム 主任研究員 甲斐 克明) ③クヌギチップを利用した菌床シイタケ子実体発生操作技術の確立 (きのこグループ きのこチーム 主幹研究員(TL) 有馬 忍)	副知事、部長、 審議監、関係課室長、 センター長他 (計 約40名)

7. 知的財産権の取得状況

(1) 特許登録

平成27年度中に登録となった特許は下表のとおりであった。

発明・考案の名称	関係所属	大分県の 権利持分(%)	特許番号 (登録日)
精子用希釈液、及び、これを用いた人工授精方法	畜産研究部	50	特許第5733829号 (H27.4.24)
精子保存液、精子保存方法及び人工授精方法		50	特許第5904369号 (H28.3.25)
貝類毒化軽減装置および貝類毒化軽減方法	水産研究部	100	特許第5818111号 (H25.10.9)

(2) 品種登録

平成27年度中に登録された品種等は下表のとおりであった。

種類(品種名)	関係所属	大分県の 権利持分(%)	登録番号 (登録日)
トルコギキョウ(チェリービー2号)	花きグループ	100	第24322号 (H27.5.20)
トルコギキョウ(チェリービー3号)	花きグループ	100	第24323号 (H27.5.20)
ヤマジノギク(TOYOロマン2号)	花きグループ	100	第24345号 (H27.6.19)
ヤマジノギク(TOYOロマン3号)	花きグループ	100	第24346号 (H27.6.19)

8. 大学との連携

県内には農林水産系の4年制大学がなく、研究交流が容易に進み難い状況にあるため、平成19年1月29日に九州大学大学院農学研究院と共同研究や人材養成について連携する基本協定を締結し、共同研究等で幅の広い研究を行うための連携を進めた。なお平成24年1月28日を以て5年間の有効期間が満了したが5年間の協定の延長を行っている。

平成27年度は、4課題について共同研究・連携に向けた取組を行うと共に、九州大学大学院農学研究院と大分県農林水産部との連携協議会を下表のとおり2回開催した。

開催月日	場所	行事名	内 容	参 集 者
H27.8.5	九州大学	九州大学大学院農学研究院と大分県農林水産部との連携協議会	協議内容:「大分県農林水産試験研究基本指針」の策定にあたり、有識者の立場からの意見や提案及びアドバイスをいただいた。	九州大学 農学研究院長 他 センター センター長 他 (計 約40名)
H28.3.10	九州大学	九州大学大学院農学研究院と大分県農林水産部との連携協議会	取組報告:「大分県農林水産試験研究基本指針」の策定を受け、これからの県試験研究の方向性等について報告を行うと共に、連携協定の再延長について検討を行った。	九州大学 農学研究院長 他 センター センター長 他 (計 約10名)

9. 受賞、学位取得の状況

平成27年度は4名の研究員が研究功績賞を受賞した。
 また1名の研究員は学位（博士）を取得した。
 平成28年3月末時点での当センター職員の学位（博士）取得者は12名である。

(1) 受賞者一覧

受賞者	受賞名	表彰授与主体	受賞年月日	受賞の内容
技師 小野美年	第29回林業科学技術振興賞（研究支援功労賞）	公益社団法人国土緑化推進機構	H28. 2. 12	長きにわたり研究支援部門の業務に従事し林業・林産に関する研究の進展に貢献した。
主幹研究員（TL） 城井秀幸	第24回日本木材学会地域学術振興賞	一般社団法人日本木材学会	H28. 3. 28	本県において、木材学に関する学術の発展と研究成果の普及に貢献した。
主幹研究員（総括） 石井秀之	九州林学会賞	九州森林学会	H27. 10. 5	九州森林学会での長年の活動
専門研究員（TL） 福田 穰	日本魚病学会賞	日本魚病学会	H28. 3. 13	長年の研鑽により魚病学に関する秀れた研究業績を挙げ、かつ日本魚病学会の運営発展に貢献した。

(2) 学位取得者一覧

職名	氏名	所得年月日	所得大学	学位	学位論文テーマ
主任研究員	木本圭輔	H27. 9. 25	広島大学	博士（農学）	九州北東部におけるアマゴの保全に関する研究

【農林水産部職員（H28年3月末時点）の博士号取得者数 18名】

うち農林水産研究センター所属：12名（内訳：農研部(1)、水田農業(1)、果樹(1)、畜研部(3)、林研部(1)、きのこ(1)、水研部及び浅海・内水面(4)）

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

月 日	行事名等	場 所
8月6日	農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議 （畜産林業水産部門）	水産会館
8月10日	農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議 （農業部門）	水産会館
9月1日	農林水産部試験研究外部評価委員会	コンパルホール
10月17日～18日	農林水産祭（水産部門）への水産研究展示	亀川漁港
10月24日～25日	農林水産祭（農林業部門）への農業・畜産・林業研究展示	別府公園

(2) 所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当で構成する企画調整会議を開催した。

なお、所属長会議は4回、企画調整会議は5回開催した。

1.1. 各所属の業務・試験研究

所属名	主な業務・研究内容
農林水産研究指導センター (本部)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定 ○稲・麦・大豆の栽培技術、優良種子生産
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種雄牛の造成、改良増殖 ○肉用牛・乳用牛の飼養技術、繁殖技術 ○飼料生産技術、放牧技術、家畜環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術 ○家禽の育種、飼養管理技術
林業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○森林施業技術、スギ等育種、病虫害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、製品開発、竹材加工技術
きのこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定に関する研究
水産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○養殖技術の開発、魚介類の疾病対策、漁場環境保全、水産物の品質向上技術
浅海・内水面グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術及び資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

12. 予算概要

平成27年度予算概要（当初予算[人件費を除く]）

（単位：千円）

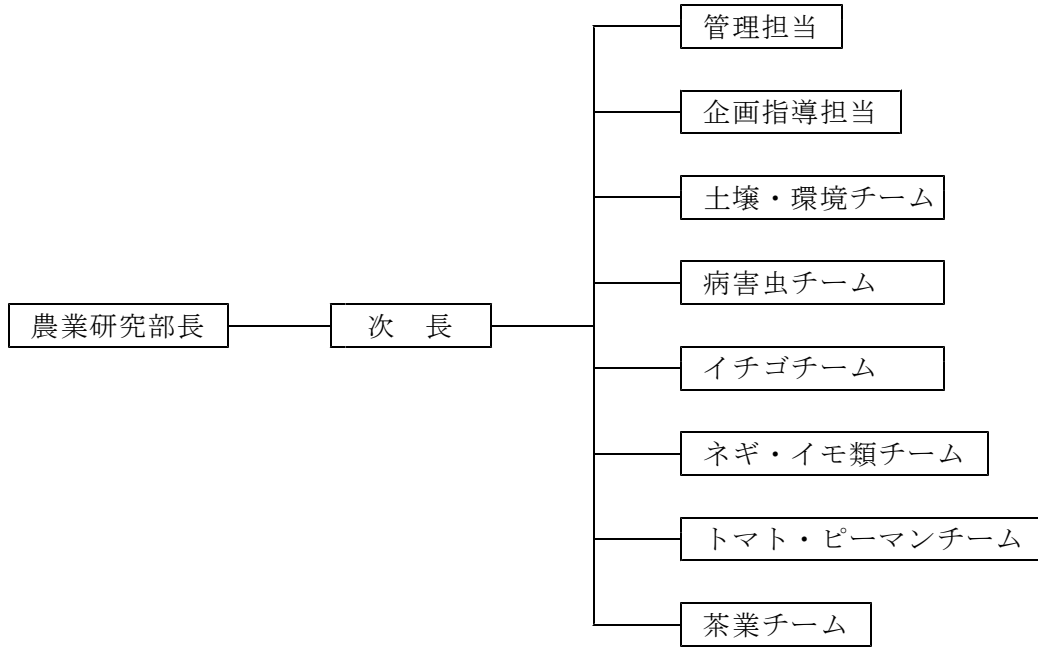
区 分	管理運営費 +管理予算	施設整備費	試験研究費	計
試験研究調整費、農業気象情報ネットワーク推進事業 （農林水産研究指導センター本部）	5,530		16,836	22,366
農林水産研究指導センター施設整備事業		56,452		56,452
農業研究部	63,415		44,812	108,227
水田農業グループ	23,761		12,328	36,089
果樹グループ	16,125		23,669	39,794
花きグループ	23,635		11,967	35,602
畜産研究部	41,103		145,601	186,704
林業研究部	15,942		10,306	26,248
きのこグループ			13,203	13,203
水産研究部	28,576		45,129	73,705
浅海・内水面グループ	22,143		22,542	44,685
合計（農林水産研究指導センター）	240,230	56,452	346,393	643,075

II 各研究部・グループの概要

II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職種		職員				計	備考
	事務	技術	技師	労務技師	業務技師	事務補佐		
部長		1					1	
次長	1						1	兼センター管理調整監
管理担当	5					1	6	
企画指導担当		6					6	広域普及指導員3
土壌・環境チーム		7		1			8	
病虫害チーム		9					9	
イチゴチーム		5	1	1			7	
ネギ・イモ類チーム		4					4	
トマト・ピーマンチーム		5	1		1		7	
茶業チーム		2	1				3	
計	6	39	3	2	1	1	52	

(3) 業務

- ① 土壌管理・施肥改善技術、土壌保全環境保全型農業技術
- ② 病虫害の発生予察・防除技術、環境保全型農業技術
- ③ イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術
- ④ ネギ・カンショ等の安定生産技術
- ⑤ トマト・ピーマンなどの品種選定、栽培技術
- ⑥ 茶の安定生産・高品質化技術
- ⑦ 生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題 (1/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
県間連携によるイチゴ新品種の育成				
1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立				
(1) 母本特性評価	イチゴチーム	山口県、鳥取県、島根県、岡山県、長崎県、九州農研セ	H25～27	県単
(2) 組合せ能力検定	〃	〃	〃	〃
(3) 選抜	〃	山口県、鳥取県、島根県、岡山県、長崎県、九州農研セ	〃	〃
2) 育種期間短縮のための交配、選抜方法の確立				
(1) 育種期間短縮のための交配方法の確立	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 育種期間短縮のための選抜、評価方法の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 育種短縮技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成				
①実生系統選抜、二次系統選抜、三次系統選抜、四次系統選抜	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
②五次系統選抜の栽培技術	〃	イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
③育成系統「大分5号」「大分6号」の栽培技術	〃	〃	〃	〃
DNAマーカーを用いた県育成品種識別法と効率的選抜育種技術の開発				
1) わい性トルコギキョウ品種の識別技術確立	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
2) 立枯病害抵抗性選抜マーカーの作成				
(1) 立枯病害抵抗性遺伝様式の解明	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
(2) 立枯病害抵抗性選抜DNAマーカーの探索	〃	〃	〃	〃
ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立				
3) 薬培養条件の検討	イチゴチーム	花きグループ	H26～27	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術				
1) 栽培環境が単収に及ぼす影響調査				
(1) 年内の夜間温度の違いが展開葉速度に及ぼす影響	イチゴチーム	各振興局	H25～27	県単
(2) 定植時期および遮光の有無が頂果房と第一次腋果房の出蕾時期と果房間葉数に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 元肥の違いが生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
2) 現地実証	〃	産科セ、広域普及指導員、各振興局	〃	〃
安全生産技術に対する研究				
1) 病害虫防除対策				
(1) 病害に対する薬剤選定	病害虫チーム	各振興局	長期	県単 一部委託
(2) 虫害に対する薬剤選定	〃	なし	〃	〃

2. 試験研究課題 (2/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
夏秋トマトのすすかび病と線虫類の防除対策				
1) すすかび病対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局、西部振興局	H26～28	県単
(3) 有効な薬剤の探索				
① 圃場での防除効果	病害虫チーム	なし	H26～28	県単
② 薬剤感受性検定	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
2) 線虫対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局	H26～28	県単
(2) 防除対策の確立				
① 液剤の灌注時期	病害虫チーム	なし	H26～28	県単
② 粒剤の防除効果比較	〃	豊肥振興局	〃	〃
③ キルパー灌水処理による防除効果	〃	なし	〃	〃
(3) 現地実証試験	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
小ネギの冬期増収に向けた栽培技術の改善				
1) 栽培基準の見直し				
(1) 播種量、施肥方法の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
2) 冬期栽培に適した施肥技術の検討				
(2) 施用する窒素形態の検討				
① アンモニア態窒素肥料と硝酸態窒素肥料の窒素利用効率の比較	土壌・環境チーム	ネギ・イモ類チーム	H25～27	県単
② CDU入り元肥の肥効パターンの解析	〃	〃	〃	〃
ニラの作型改善のための品質、収量向上技術の確立				
1) 作期の前進化による収量確保				
(1) 品種、播種時期の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
根深ネギの夏秋期出荷量不足打開に向けた安定生産技術の確立				
1) 萎凋病および白絹病の防除技術				
(1) 萎凋病、白絹病の発生実態の解明				
① 時期別発生消長調査	病害虫チーム	北部振興局	H27～29	県単
② 現地の栽培管理調査	〃	〃	〃	〃
③ 土壌環境調査	〃	〃	〃	〃
④ 残渣が土壌病害に与える影響	〃	なし	〃	〃
⑤ 茎盤部の硝酸態窒素濃度が土壌病害に与える影響	〃	〃	〃	〃
(2) 有効な薬剤の探索				
① 萎凋病に対する有効薬剤の検討	病害虫チーム	北部振興局	H27～29	県単
② 白絹病に対する有効薬剤の検討	〃	〃	〃	〃
③ 白絹病の耐性菌調査	〃	〃	〃	〃
(3) 耕種的な防除対策の確立	〃	〃	〃	〃

2. 試験研究課題 (3/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
2) 「スーパー大苗」による夏越し作型安定化技術				
(1) スーパー大苗育苗技術の確立				
① 株間可変育苗時の養分供給方法の違いが苗の生育に及ぼす影響	ネギ・イモ類 チーム	なし	H27～29	県単
② 培養土の種類と追加量及び添加資材の違いが苗の生育に及ぼす影響	〃	土壌・環境 チーム	〃	〃
③ 播種時期、株間可変育苗開始時期の違いが苗の生育に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(2) 新たな夏越し作型における栽培管理方法の確立				
① 品種および追肥施肥量が生育、収量に及ぼす影響	ネギ・イモ類 チーム	なし	H27～29	県単
② 追肥及び土寄せ時期が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
農林水産物輸出拡大対策				
1) 青果物の品質保証				
(1) 大分県産カンショ「べにはるか」の糖度推定法の開発	ネギ・イモ類 チーム	(株)クボタ	H25～28	県単
農林水産物輸出拡大に関する研究開発				
1) 栄養性や機能性を活かした研究開発				
(1) 農業参入企業との農産物の内質調査研究	土壌・環境 チーム	なし	H27～28	県単
(2) 品種および栽培・肥培管理が農産物の内質に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシ既発生地における 発生実態の解明と生物的防除を核とした薬剤抵抗性管理技術の策定				
1) 大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態	病虫害チーム	農研機構果樹 研、日本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山県	H26～30	国庫 委託プロ
2) ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの寄生範囲の解明	〃	〃	〃	〃
3) 生物的防除資材とネオニコチノイド剤の代替薬剤による 防除体系の検討	〃	〃	〃	〃
4) 生物的防除資材であるテントウムシ類による防除効果の検討	〃	〃	〃	〃
シソサビダニが引き起こすオオバモザイク病およびさび症の防除体系の 確立				
1) 農業による防除技術の開発				
(1) シソサビダニの探索	病虫害チーム	中部振興局、 中央農研、高 知県、愛知 県、法政大学	H27～29	委託
2) 大分県における発生実態調査及び防除マニュアルの実証				
(1) シソモザイク病の発生消長調査	病虫害チーム	中部振興局、 中央農研、高 知県、愛知 県、法政大学	H27～29	委託
(2) アンケート調査	〃	〃	〃	〃
養液トマト栽培における <i>Pythium</i> 属菌の発生実態の解明				
1) 大規模現地生産法人施設における <i>Pythium</i> 属菌の発生実態の解明	病虫害チーム	トマト・ビー マンチーム、 土壌・環境 チーム、南部 振興局	H27	県単
2) 養液のpH調整による <i>Pythium</i> 属菌の発生抑制効果の検証	〃	〃	〃	〃
病虫害発生予察事業				
1) イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	病虫害チーム	各振興局	H27	県単
2) イネいもち病のQoI剤耐性菌検定	〃	〃	〃	〃
農業残留特殊調査 (マイナー作物への登録拡大)	病虫害チーム	中部振興局	H25～27	県単、 一部国庫

2. 試験研究課題 (4/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
緑茶飲料茶、「おおいた茶グリーン」の収量、品質向上技術の確立				
1) 新需要に対応した多収安定生産技術の開発				
(1) 摘採適期予測技術	茶業チーム	なし	H25～27	県単
(2) 主要品種の秋冬番茶生産技術の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 気象データの収集と最終摘採時期の解明	〃	〃	〃	〃
2) 「おおいた茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術の高度化				
(1) 被覆・摘採適期判断技術	茶業チーム	(株)サタケ	H25～27	県単
(2) 品種毎の被覆適応性解明	〃	なし	〃	〃
(3) 高品質茶園の要因分析	〃	研究普及課、 土壌・環境 チーム	〃	〃
3) 栄養性適応性試験				
(1) 旧系適12群 (2) 旧系適13群 (3) 茶育成系統1群	茶業チーム	(国) 野茶研	H25～27	県単
「いつでも!大分産トマト」を目指した、省力・最適栽培管理技術の確立				
1) 安定生産のための省力・出荷量平準化栽培技術の確立(夏秋)				
(1) 中段密植栽培による出荷量平準化技術の確立				
① 二作型の検討	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
② 品種比較試験	〃	〃	〃	〃
(2) かん水施肥栽培システムの高機能化による出荷量平準化技術の確立				
① 飽差管理の検討	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
2) 最適栽培管理技術の確立 (冬春トマト)				
(1) 統合環境制御術の確立 (炭酸ガス施用)	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
(2) 軟化対策技術の確立 (水分管理)	〃	〃	〃	〃
3) 最適栽培管理技術の確立 (周年高精度栽培)				
(1) 軟果対策技術の確立 (温度管理)	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
(2) 軟果対策技術の確立 (品種比較)	〃	〃	〃	〃
夏秋ピーマン産地の次代を担う省力・安定生産技術の確立				
1) 高温耐性品種の選定				
(1) 品種選定	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
2) 施設管理省力化技術の確立				
(1) 硝酸態窒素主体の施肥体系	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
3) 高温対策技術				
(1) 夏期の遮光技術	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
4) 栽培および出荷調製作業省力化技術の確立				
(1) 株間と整枝方法の改善	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単

2. 試験研究課題 (5/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
チャの病害虫防除に関する研究				
1) チャの主要病害虫の発生予察に関する試験				
(1) 主要病害虫の発生状況調査	茶業チーム	病害虫チーム、東部振興局、中部振興局、北部振興局	長期	県単
(2) チョウ目害虫、クワシロカイガラムシ等の発生予察調査	〃	〃	〃	〃
2) チャの主要病害虫を対象とした委託試験				
(1) 新農薬の実用性判定試験 (日本植物防疫協会試験)				
① チャノココクモンハマキ	茶業チーム	日本植物防疫協会	H27	県単
② チャトゲコナジラミ	〃	〃	〃	〃
(2) 登録農薬の有効利用法の検討 (九防協連絡試験)				
① チャハマキの効率的防除試験	茶業チーム	九防協、福岡県、鹿児島県	H27	県単
② カンザワハダニの効率的防除試験	〃	九防協	〃	〃
③ チャトゲコナジラミの効率的防除法の確立	〃	〃	〃	〃
3) チャの病害虫防除対策試験				
(1) 主要病害虫の薬剤感受性検定				
① チャノミドリヒメヨコバイの薬剤感受性検定	茶業チーム	中部振興局、豊肥振興局、北部振興局	H26～28	県単
環境負荷を少なくする低コスト施肥技術の開発				
1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	土壌・環境チーム	全振興局、畜産技術室	H25～32	国庫委託
5 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
製鋼スラグを利用した火山灰土壌(黒ボク土)のリン酸利用率向上技術の開発				
1) リン酸利用率の検討				
(1) 根深ネギ	土壌・環境チーム	関係振興局	H25～27	県単
2) 環境負荷への影響の検討	〃	〃	〃	〃
3) 現地実証試験	〃	〃	〃	〃
平坦地への作付け拡大に向けた水稻品種「つや姫」の高品質・安定生産				
1) 施肥基準の確立				
(1) 施肥技術				
① 分施肥系における窒素吸収量の解明	土壌・環境チーム	水田農業グループ	H25～27	県単
② 全量元肥系における窒素吸収量の解明	〃	〃	〃	〃
大麦焼酎粕濃縮液の肥料成分利用技術の確立				
1) 濃縮液特性解明				
(1) 分解特性の解明	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
(2) 窒素成分発現量の解明				
① 畑作物への適用性解明	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
2) 環境に及ぼす影響解明				
(1) 土壌化学性調査	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
(2) 地下浸透水調査	〃	〃	〃	〃

2. 試験研究課題 (6/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
イチゴ、カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗の育成				
1) 「大分6号」ウイルスフリー系統の生産力検定	イチゴチーム	なし	長期	県単
イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	なし	長期	県単
カンショのウイルスフリー苗の育成	ネギ・イモ類 チーム	イチゴチーム	〃	〃
カンショの品種選定	〃	九沖農研セ	〃	〃

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
平成26年度農業研究部試験研究成績書	H27. 6月	420	50
環境制御マニュアル (にら)	H28. 2. 9	3	データ
平成27年度植物防疫事業成績書	H28. 3. 31	70	300

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 (1/2)

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 1. 冬期伝染環の解明 -	植物防疫	第69巻	712-717
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 2. 宿主内のTSWV量とミカンキイロアザミウマによる獲得頻度の関係およびTSWV保毒虫モニタリング手法の開発 -	植物防疫	第69巻	802-806
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 3. 媒介虫ミカンキイロアザミウマに対する防除対策の確立 -	植物防疫	第70巻	161-165
岡崎真一郎	トマト黄化えそウイルス (TSWV) と媒介種であるミカンキイロアザミウマの総合防除に関する研究	九州病害虫研究会報	第61巻	75-76
福本律子、鈴木智範、田中啓二郎、山崎修一	平成26年度の夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発生長及び発生予察調査基準の検討	九州病害虫研究会報	第61巻	83
鈴木智範、福本律子、姫野和洋	2014年におけるネコブセンチュウ被害圃場の線虫種について	九州病害虫研究会報	第61巻	90

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 (2/2)

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
井上美樹、今村香織、岡崎真一郎	イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	16
米田恵美、岡崎真一郎、佐藤善人	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生消長と各種薬剤の殺虫効果	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	16
岡崎真一郎、姫野和洋、井上美樹、山崎真居、土田聡	大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	19
伊藤玲央	チャハマキ成虫に対するシアントラニプロール剤の殺虫活性	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	25
上曾山大、安部貞昭、山崎真居	イチゴ育成系統「大分5号」の栽培技術	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	123
清松慎司、姫野和洋	タバコガ類防除のための防虫ネット全面展張方法の開発	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	138
濱田翔子、奈良絵美	遮光資材を利用したニラの葉先枯れ抑制技術	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	142
山田晴夫、大塚美希	夏秋トマトの裂果等の生理障害対策技術について	農耕と園藝	2016年 1月号	17

(3) 研究会、学会等での発表 (1/2)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.8.27	第78回九州農業研究発表会	上曾山大	イチゴ育成系統「大分5号」の栽培技術
H27.8.27	第78回九州農業研究発表会	清松慎司	タバコガ類防除のための防虫ネット全面展張方法の開発
H27.8.27	第78回九州農業研究発表会	濱田翔子	遮光資材を利用したニラの葉先枯れ抑制技術
H27.10.30	平成27年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 遺伝子研究連絡会	深蔵知花	平成27年度遺伝子研究連絡会
H27.12.14-15	第3回生態と防除研究会	福本律子	限られた期間で試験研究をより良く進めるためには ~若手の視点から~
H28.2.2	九州農業研究推進会議	池永亜希子	栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術 排水濃度が生育及び収量に及ぼす影響

(3) 研究会、学会等での発表 (2/2)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H28. 2. 2	九州農業研究推進会議	竹下和希	「さがほのか」において定植時期および遮光の有無が出らい時期および花数に及ぼす影響
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	山野秀真	冬春トマトにおける変温管理を用いた二酸化炭素施用効果の実証
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	大塚美希	夏秋トマトにおける気化冷却装置による飽差管理
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	藪野航大	夏秋トマトにおける優良品種の選定
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	姫野和洋、松浦明、岡崎真一郎、玉野井 昭、山崎真居、土田聡	ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの寄主別増殖率の調査
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	岡崎真一郎、井上美樹、上杉龍士、長坂幸吉	ピーマン施設内の三尺ソルゴーに発生したアブラムシ類から確認された一次寄生蜂種
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	福本律子、鈴木智範、山崎修一	夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発病と植物体内硝酸イオン濃度との関係
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	世古雅一、田中啓二郎	大分県の白ネギにおける萎凋病の発生消長と耕種的防除
H28. 2. 22	平成27年度九州・沖縄地方への気候変動影響適応対策推進に向けた地域ワーキンググループ	佐藤郁	大分県の気象観測と研究事例について
H28. 3. 21-23	平成28年度日本植物病理学会大会	久保田健嗣、岡田知之、市川耕治、田中啓二郎、宇杉富雄、富高保弘、津田新哉	シソモザイクウイルスの遺伝的多様性
H28. 3. 26	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	伊藤玲央	チャハマキ成虫に対するシアントラニリプロール剤の殺虫活性
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	岡崎真一郎、姫野和洋、井上美樹、山崎真居、土田聡	大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	井上美樹、今村香織、岡崎真一郎	イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	米田恵美、岡崎真一郎、佐藤善人	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生消長と各種薬剤の殺虫効果

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
トマトの総合的な裂果対策技術（副知事報告）	H27. 8. 24	県庁81会議室	1	20
トマトの総合的な裂果対策技術（知事報告）	H27. 9. 7	知事室	1	15

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催（1/2）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H27. 4. 7	ピーマンウイルス病対策説明会	豊後大野市	100	大分県農協豊後大野事業部
H27. 4. 9	ピーマンウイルス病対策説明会	竹田市	30	大分県農協竹田事業部
H27. 4. 15	サニープレイスファーム現地検討会	佐伯市	8	南部振興局（以降ほぼ月1回実施）
H27. 4. 16	ピーマンウイルス病対策説明会	大分市	24	大分夏秋ピーマン連絡協議会役員会
H27. 4. 22	ピーマンウイルス病対策説明会	臼杵市	20	県たばこ耕作組合
H27. 5. 3	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 5. 21	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 5. 27	病害虫防除員新任者研修会	農業研究部	5	
H27. 6. 4	普及指導員専門技術研修（安全農業）	農業研究部	20	研究普及課
H27. 6. 5	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	16	研究普及課
H27. 6. 16	課題解決研修（茶）	農業研究部	9	研究普及課
H27. 6. 21	「おおいたの茶人」研修会	農業研究部	10	日本茶インストラクター協会大分県支部
H27. 6. 23	普及指導員専門技術研修（野菜・基礎）	農業研究部	20	研究普及課
H27. 6. 24	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27. 6. 26	無人ヘリ講習会	産業科学技術センター	50	おおいたブランド推進課
H27. 6. 26	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 6. 27	キクウイルス病対策説明会	玖珠町	25	西部振興局
H27. 7. 22	課題解決研修（茶）	農業研究部	9	研究普及課
H27. 7. 23	第46回大分県茶品評会審査会	農業研究部	13	大分県茶業協会

(1) 講習会、研修会の開催 (2/2)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.7.29	大分県園芸活性化協議会ピーマン研修会	臼杵市	150	園芸振興室
H27.7.29	大分ピーマン栽培研修会	臼杵市野津町	80	JAおおいた、全農
H27.8.11	トマト園芸技術者協議会	竹田市	40	JAおおいた、全農
H27.9.4	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27.9.16	ドリンク茶専用法人生産対策研修会	宇佐市	33	県内ドリンク茶法人
H27.9.28	大分県品評会茶及び仕上げ上茶研修会	農業研究部	18	大分県茶業協会
H27.9.29	大分県茶品評会研修会	大分市	50	大分県茶業協会
H27.9.29	タイ王国農業リーダープロジェクト研修	豊後大野市	30	タイ国農業・共同組合省
H27.10.7	土壌肥料・病害虫研修会	大分市	100	おおいたブランド推進課
H27.10.9	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27.10.29	ピーマンウイルス病対策育苗指導	熊本県大津市	10	豊肥振興局
H27.10.30	ピーマンウイルス病対策説明会	玖珠町	30	西部振興局
H27.11.24	ピーマン部会研修会	豊後大野市	50	JAおおいたピーマン部会
H27.11.24	JAおおいた豊後大野ピーマン部会研修会	豊後大野市	100	大分県農協豊後大野事業部
H27.11.26	大分夏秋ピーマン連絡協議会品種検討会	大分市	20	JAおおいた、全農
H27.12.2	農業研究部・グループ合同研修会	別府市	33	農業研究部
H27.12.3	施肥・防除対策研修会	大分市	150	おおいたブランド推進課
H28.2.8	農薬指導士認定研修	大分市	150	おおいたブランド推進課
H28.2.9	九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	佐賀市	50	九州沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会、九州農政局
H28.2.9	ドリンク茶専用法人品質管理研修会	大分市	36	園芸振興室
H28.2.12	園芸活性化協議会ピーマン研修会	農業研究部	30	園芸活性化協議会
H28.2.26	大分園芸活性化協議会トマト研修会	農業研究部	30	園芸活性化協議会
H28.2.26	平成27年度大分県茶流通研修会	杵築市	41	大分県茶業協会
H28.3.10	豊後高田市認定農業者組織視察研修	豊後大野市	15	豊後高田市認定者組織

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
上野 純輝	農業大学校	夏秋ピーマンの整枝試験	H27. 5. 12～11. 27
吉田 克成	農業大学校	生及び乾燥アオサを活用したスイートコーン及びトマト栽培	H27. 5. 8～11. 20
吉武 大輝	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方 (マシン油)	H27. 8. 5～11. 12
戎 歩夢	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方 (マシン油)	H27. 8. 5～11. 12
首藤 啓之	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方 (マシン油)	H27. 8. 5～11. 12
衛藤 竜誠	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方 (マシン油)	H27. 8. 5～11. 12

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	28	139
団体等職員	15	27
普及指導員	40	92
学生	2	2 ※大学
児童・生徒	1	30 ※小中高校
海外からの視察者	8	34
その他	0	0
計	94	324

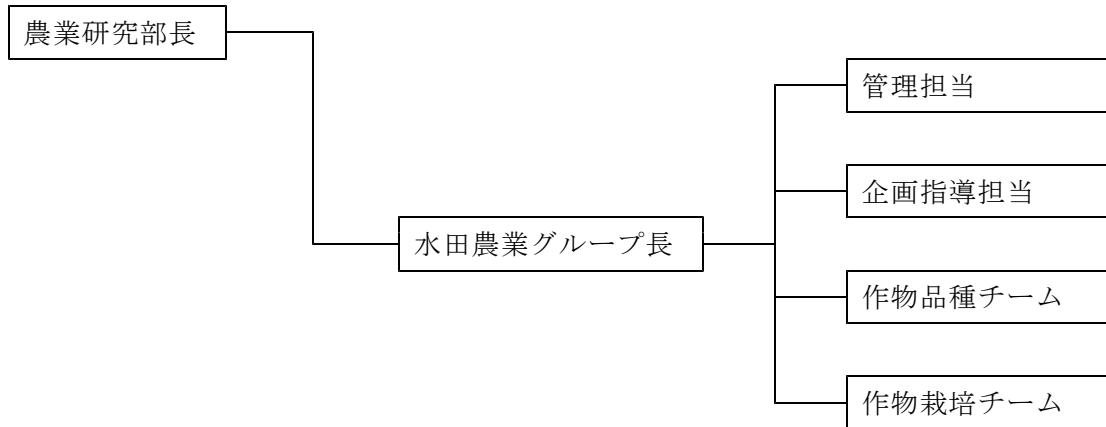
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

なし

II-2 水田農業グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織 \ 職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	3						3	
企画指導担当		2					2	広域普及指導員 1名
作物品種チーム		4	1				5	
作物栽培チーム		4	4				8	
計	3	11	5				19	

2. 業務

- ① 水稲・麦・大豆の品種育成及び選定
- ② 水稲・麦・大豆の栽培技術改善
- ③ 水稲・麦・大豆の優良種子生産
- ④ 生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題

試験研究課題名		担当	連携機関	試験期間	予算区分
I 大課題	1 中課題	1) 小課題	(1) 試験項目		
産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発					
I ブランド化のための技術開発					
1	地場醸造企業への安定供給に向けた高品質麦類の生産技術の確立	作物品種チーム	大分県酒造組合、大分県味噌醤油工業協同組合	H27～29	県単
2	水稲・麦・大豆の品種選定	作物品種チーム 作物栽培チーム	(独)農研機構、集落営農・水田対策室、振興局	H25～27	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発					
3	水稲乾田直播栽培を基軸とした土地利用型作物の超低コスト栽培法の開発	作物栽培チーム	(独)農研機構生研センター、アグリテクノ矢崎(株)	H26～28	県単
4	生育制御と雑草防除による大豆の高位安定生産技術の確立	作物栽培チーム	九州大学、農林水産・食品産業技術振興協会	H27～29	県単
IV 地球温暖化・環境対策等の技術開発					
5	平坦地への作付け拡大に向けた水稲品種「つや姫」の高品質・安定生産技術の確立	作物品種チーム	集落営農・水田対策室、振興局、農業研究部	H25～27	県単
V 地球資源の活用と省エネルギーの技術開発					
6	地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立～普通作物・野菜における焼酎粕濃縮液の肥料成分利用技術の開発～	作物栽培チーム	三和酒類(株)、北部振興局、農業研究部	H27～29	県単
研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立					
VI 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立					
7	主要農作物等種子対策事業	作物栽培チーム	集落営農・水田対策室	長期	県単
	(1) 稲、麦、大豆原種育成及び特別増殖圃設置事業				
	(2) 稲、麦、大豆原種生産				

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
植生転換と作業道造成による畦畔管理の手引き	H27. 4. 28	44	30
大分県の大豆作における難防除雑草の発生実態	H28. 2. 23	13	50
大分つや姫栽培のポイント 平成27年度版 (県農協発刊、水田農業グループ原稿提供)	H28. 2. 26	7	1,000
平成28年産大分県飼料用米栽培マニュアル	H28. 3. 31	16	1,500
水田夏作試験成績書	H28. 3. 31	241	40
水田冬作試験成績書	H28. 3. 31	125	40

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

なし

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.8.27	九州農業研究発表会 作物部会(水田作)／日本作物学会九州支部第92回講演会	近乗偉夫・森山修志・河野礼紀・森本美和・江川寛子・田中啓二郎・橘 保宏・有吉映明	播種様式(点播)が二条大麦「ニシノホシ」の生育・収量に及ぼす影響
H27.8.27	九州農業研究発表会 作物部会(水田作)／日本作物学会九州支部第92回講演会	森本美和・江川寛子・近乗偉夫・森山修志・河野礼紀・菊屋良幸・田中啓二郎	センチピードグラスの直播による畦畔管理の省力・低コスト技術の開発
H28.3.3	新稲作研究会	近乗偉夫・河野礼紀・柿原千代文	大豆摘芯技術の活用による狭畦密植・無中耕無培土栽培の確立
H28.3.28	日本雑草学会第55回大会	松尾光弘・酒井泰良・長谷川航・河野礼紀	カロライナツユクサの種子発芽動態
H28.3.28	日本雑草学会第55回大会	松尾光弘・酒井泰良・河野礼紀	カロライナツユクサに対する土壌処理剤および茎葉処理剤の除草効果

(4) 研究成果発表会

なし

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.8	西部地区畦畔管理省力化研修会	玖珠町	136	西部振興局
H27.4.15	西高地区畦畔管理研修会	豊後高田市	30	北部振興局
H27.5.14	農業共済組合職員研修会	水田農業グループ	30	大分県農業共済組合
H27.5.21	平成27年度大豆播種前研修会	宇佐市	100	北部振興局
H27.5.28	農産物検査員育成研修	別府市	30	大分県JA農産物検査協議会
H27.6.9-11	専門技術研修(基礎)	水田農業グループ	6	研究普及課
H27.6.25	東部地区大豆播種前研修	国東市	40	東部振興局
H27.6.30	豊肥地区大豆播種前研修	豊後大野市	40	豊肥振興局
H27.7.3	西部地区稲作研修会	日田市	50	西部振興局
H27.8.3-4	専門技術研修(基礎)	水田農業グループ	6	研究普及課
H27.8.24	中山間地域畦畔管理省力化研修会	中津市	200	集落営農・水田対策室
H27.9.3	ニシノホシ委託原種研修会	豊後大野市	10	豊肥振興局
H27.9.4	西部地区集落営農組織人材養成研修	日田市	18	西部振興局
H27.9.7	作物課題解決研修会	水田農業グループ	20	研究普及課
H27.9.8~9	暖地地域水稲立毛検討会	杵築市、水田農業グループ	30	九州沖縄農業研究センター
H27.9.10	山香地区つや姫栽培研修会	杵築市	30	東部振興局
H27.10.7	中山間地域畦畔管理省力化研修会	大分市	80	集落営農・水田対策室
H27.10.9	大分県集落営農法人会パソコン研修	豊後大野市	20	大分県集落営農法人会
H27.10.27	トヨノホシ生産者研修会	豊後大野市	15	豊肥振興局
H27.10.28	豊肥地域集落営農・畦畔管理省力化推進研修会	豊後大野市	350	豊肥振興局
H27.11.5	東部地区麦播種前研修会	国東市	40	東部振興局
H27.11.12	美味しいお米コンテストIN宇佐	宇佐市	50	宇佐市・北部地区食料農業農村振興協議会
H27.11.12	大分県有機質資材協議会研修	杵築市	30	県有機質資材協議会
H27.11.27	専門技術研修(基礎)	水田農業グループ	6	研究普及課
H27.12.3	施肥防除対策研修会	大分市	160	おおいたブランド推進課
H27.12.4	耕畜連携研修会	日出町	20	研究普及課
H27.12.22	中山間いもち病対策研修会	農業研究部	5	研究普及課
H28.1.8	研究状況報告会	大分市	40	研究普及課
H28.1.20	山香地区つや姫栽培研修会	杵築市	30	東部振興局
H28.2.4	南部地域水田農業経営塾	佐伯市	30	南部振興局
H28.2.5	豊肥地区つや姫栽培研修会	竹田市	30	豊肥振興局
H28.2.16	豊後高田市法人会研修会	豊後高田市	50	豊後高田市
H28.2.23	作物課題解決研修会	水田農業グループ	20	研究普及課
H28.2.24	豊肥地区飼料用米研修会	豊後大野市	40	豊肥振興局
H28.2.26	大分つや姫研修会	別府市	60	集落営農・水田対策室
H28.3.7	東部地区飼料用米研修会	国東市	50	東部振興局
H28.3.14	大分県麦大豆共励会・研修会	大分市	100	集落営農・水田対策室

(2) 受入研修

① 長期研修者受入

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	3	80
団体等職員	1	30
普及指導員	6	61
学生	1	22
海外研修者	0	0
その他	1	30

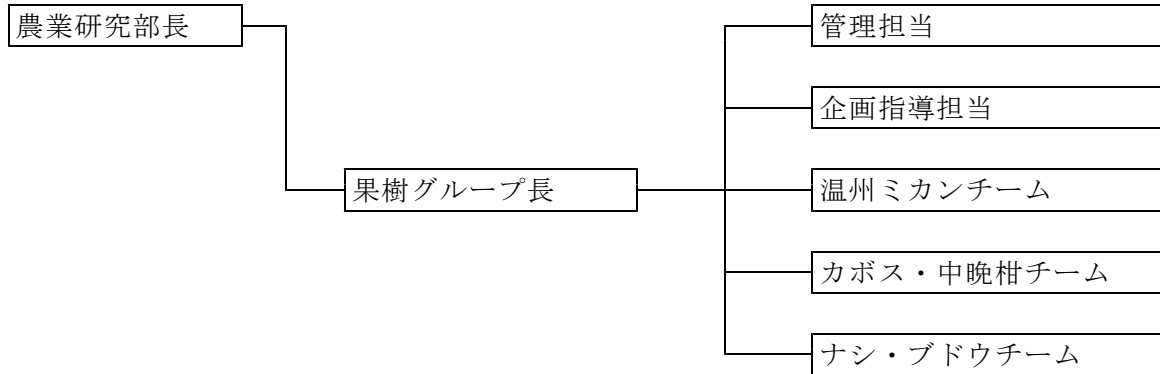
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
生産性向上にむけた飼料米の現地生産技術の確立	有望品種として選定した「夢あおば」、「くさほなみ」の現地での普及を図る。	現地圃場における2品種の収量性を確認するとともに、課題を整理し2品種を主とした栽培マニュアルを作成した。

II-3 果樹グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1						1	
企画指導担当		3					3	広域普及指導員 2
温州ミカンチーム		4		2			6	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
ナシ・ブドウチーム		6	2		1		9	
計	1	18	2	3	1		25	

(3) 業務

- ①温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ②カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ③ナシ・ブドウ等の優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ④ハウスミカン、施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤カンキツ及び落葉果樹の病害虫に関する試験研究
- ⑥生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1)小課題 (1)試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1)優良品種の選定と栽培技術確立				
(1)カンキツ系統適応性検定試験	温州ミカンチーム		25～27	県単
	カボス・中晩柑チーム			
(2)落葉果樹の系統適応性検定試験	ナシ・ブドウチーム		25～27	県単
(3)温暖化に適応したカンキツの品種選定及び栽培技術の確立	温州ミカンチーム		26～30	県単
(4)県オリジナル品種「大分果研4号」の省エネ施設栽培技術の確立	温州ミカンチーム		25～27	県単
(5)新食感カンキツ「大分果研4号」のステップアップのための技術確立	カボス・中晩柑チーム		26～28	県単
(6)とにかく美味しい！特色ある「おおいたシャインマスカット」生産技術の確立	ナシ・ブドウチーム		26～28	県単
(7)ナシ産地を脅かす薬剤耐性菌の蔓延防止と防除技術の確立	ナシ・ブドウチーム		25～27	県単
2 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
(1)秋冬商材への対応を狙ったカボスの高品質・低コスト技術の確立	カボス・中晩柑チーム	別府大学	25～27	県単
(2)果樹の病害虫防除並びに植物生長調節剤に関する試験			25～27	県単
①温州ミカンチーム、カボス・中晩柑チーム	温州ミカンチーム			
	カボス・中晩柑チーム			
②ナシ・ブドウチーム	ナシ・ブドウチーム			
(3)ブドウ産地再興をかけた特色あるワイン専用品種の開発	ナシ・ブドウチーム	三和酒類 ・香川大	27～29	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
(1)ナシの大苗育苗と流線型仕立てによる早期成園化技術の確立	ナシ・ブドウチーム		26～28	県単
～増収150%・70%減肥・省力化栽培技術の開発～				
4 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
(1)2020年代のハウスミカンをリードする高収益栽培技術の確立	温州ミカンチーム	九州大学	27～29	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
(1)農業情報(生育状況)の提供	果樹グループ		長期	県単
①カンキツの生態調査				
②落葉果樹の生態調査				
(2)優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の供給	果樹グループ		長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
平成26年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報CD版	H28.1.25	211	130枚

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
釘宮伸明	シャインマスカットの鮮度保持	現代農業	9月	202-205
釘宮伸明	シャインマスカットの「簡易低温貯蔵法」	農流技研会報	303	13

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.8.27	第78回(平成27年度)九州農業研究発表会・園芸学会九州支部会	矢野 拓	獣害防止ネットと垣根仕立てによるハウスミカン枝つり作業の省力化
H27.8.27	第78回(平成27年度)九州農業研究発表会・園芸学会九州支部会	佐藤洋平	ナシ「あきづき」の収穫適期の解明
H27.9.27	平成27年度園芸学会秋季大会	矢野 拓	園芸用被覆資材が葉面積指数センサー計測値に及ぼす影響
H27.9.27	園芸学会 秋季大会「ニホンナシを作りこなす」小集会	福田賢二	ナシ大苗育苗と流線型仕立
H27.11.13	平成27年九州支部合同大会(日本農業気象学会・日本生物環境工学会)	矢野 拓	ウンシュウミカン苗の栄養生長に及ぼす気温と日射量の影響
H28.3.27	平成28年度園芸学会春季大会	矢野 拓	定植前の剪定と栽培環境がウンシュウミカン苗の成長に及ぼす影響

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
学位取得報告	H27.6.18	知事室	1	10
農業研究部グループ合同研修会	H27.12.2	花きグループ会議室	1	33

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.9	ハウスみかん全員集会	杵築柑橘選果場	60	JAおおいの柑橘研究会
H27.4.27	ハウス美娘全員集会	杵築市	20	JAおおいの柑橘研究会
H27.5.12	カボス講座	豊肥振興局	35	豊肥振興局
H27.5.25	ハウスみかん部会全員研修会	杵築柑橘選果場	80	JAおおいの柑橘研究会
H27.5.25	ハウスデコボン部会全員研修会	杵築柑橘選果場	30	JAおおいの柑橘研究会
H27.5.28	県南地区マルチ研修会	津久見市	25	JAおおいの柑橘研究会
H27.6.8	課題解決研修	由布市	15	研究普及課
H27.6.13	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H27.6.24	第52回全国ブドウ研究大会	宇佐市	300	第52回全国ブドウ研究大会実行委員長
H27.6.29	津久見市柑橘組合長会議	津久見市役所	20	津久見市
H27.6.29	GAP研修会	佐伯市	45	JAおおいの柑橘研究会
H27.6.29	大分市ミカンバエ防除対策研修会	大分市	30	大分市、中部振興局
H27.6.30	専門技術研修	由布市	20	研究普及課
H27.7.2	東部地区ミカンバエ防除対策研修会	杵築柑橘選果場	30	東部振興局
H27.7.2	かぼす夏季管理研修会	カボス・中晩柑チーム	15	園芸活性化協議会果樹部会
H27.7.3	全果連カンキツ部会現地研修会	杵築柑橘選果場管内	50	全果連
H27.7.4	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H27.7.8	臼杵市ミカンバエ防除対策研修会	県南柑橘選果場	20	臼杵市、中部振興局
H27.7.14	カボスエリア別研修会	豊後高田市、臼杵市	60	JAおおいのカボス部会
H27.7.15	カボスエリア別研修会	竹田市	50	JAおおいのカボス部会
H27.7.22	露地みかんマルチ研修会	杵築柑橘選果場管内	100	大分県柑橘研究会
H27.7.23	ナシ後継者研修会	ナシ・ブドウチーム	32	大分県ナシ研究会
H27.8.5	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H27.9.7	サンセレブ研修会	県南柑橘選果場	30	JAおおいの柑橘研究会
H27.9.11	サンセレブ研修会	杵築柑橘選果場	10	JAおおいの柑橘研究会
H27.9.29	マイナー農業試験研修会	豊後高田市	10	北部振興局
H27.9.30	マイナー農業試験研修会	豊後高田市	10	北部振興局
H27.10.3	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H27.10.13	カボス講座	豊肥振興局	35	豊肥振興局
H27.10.19	県南カボス部会全員研修会	県南柑橘選果場	30	県南カボス部会
H27.11.11	中晩柑研修会	県南柑橘選果場	30	大分県柑橘研究会
H27.11.12	ハウスみかん全員集会	杵築柑橘選果場	60	JAおおいの柑橘研究会
H27.12.1	カンキツ病害虫研修会	愛媛県	30	愛媛県農林水産部農産園芸課
H27.12.8	カボス講座	豊肥振興局	35	豊肥振興局
H27.12.15	大分県なし研究会研修会	由布市庄内	100	大分県なし研究会
H27.12.18	平成27年産ぶどう反省会・生産者研究大会	JA安心院事業部	40	JA安心院事業部
H27.12.22	果樹防除暦検討会	大分市	30	園芸活性化協議会果樹部会
H28.1.7	ハウスデコボンせん定研修会	杵築市	20	JAおおいの柑橘研究会
H28.1.12	ハウス美娘せん定研修会・全員集会	杵築市	20	JAおおいの柑橘研究会
H28.1.16	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H28.1.12	カボス講座	豊肥振興局	35	豊肥振興局
H28.1.15	みかん祭り品評会	杵築市健康福祉センター	20	杵築市
H28.1.20	アシストスーツ現地研修会	杵築柑橘選果場	60	和歌山大学
H28.1.27	カボスエリア別研修会	豊後高田市、国東市	52	JAおおいのカボス部会
H28.1.28	カボスエリア別研修会	竹田市、臼杵市	89	JAおおいのカボス部会
H28.2.4	ハウスみかん研修会	杵築柑橘選果場管内	60	大分県柑橘研究会
H28.2.20	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会
H28.3.8	カンキツ剪定研修会	果樹グループ温州ミカンチーム	10	園芸活性化協議会果樹部会
H28.3.10	平成27年度JAおおいの天瀬ぶどう部会研修会	日田市	20	JAおおいの天瀬ぶどう部会
H28.3.11	カボス剪定講習会	臼杵市	50	JAおおいのカボス部会
H28.3.13	みかん学校	南部振興局	50	佐伯地域柑橘研究会

(2) 受入研修

① 長期研修者受入

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	82	568
団体等職員	19	52
改良普及指導員(公務員)	43	171
学生	10	133
海外研修者	1	5
その他	29	80
計	184	1009

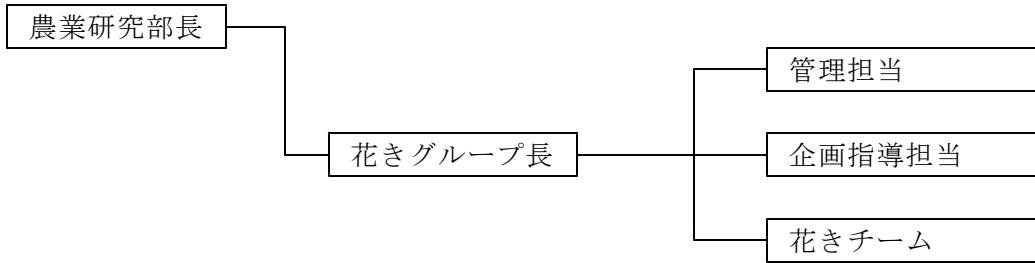
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
2020年代のハウスミカン をリードする高収益栽培技術の開発	ハウスミカンの改植後の未収益期間の短縮と反収向上を図るため、垣根仕立ての栽培技術の普及を図る	杵築市の実証圃において、平成26年11月にポット育苗した大苗を定植した。平成27年3月より保温状態にて育苗を再開し、秋季に育苗を終了した。平成27年12月に加温を開始し、初年度目標収量4tを達成する見込み。
ナシの大苗育苗と流線型仕立による早期成園化技術の確立	ナシの改植後の未収益期間の短縮と反収向上を図るため、流線型仕立ての栽培技術の普及を図る。	平成24年1月から実証圃の設置を開始し、平成27年度は日田市の「あきづき」の単収が約3t/10aであった。平成27年度の実証面積は約90aで、県内の主要産地に広がっている。 大苗生産は平成26年3月に日田市で実証施設を建設し、試験生産を開始した。その後、平成27年度までに日田市(3)、中津市(1)、由布市(2)、日出町(1)の計7箇所に拡大、育苗本数は1,000本を超えている。

II-4 花きグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職 種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1						1	
企画指導担当		2					2	広域普及指導員1
花きチーム		6	1		1		8	
計	1	9	1		1		12	

(3) 業務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②花きの研究成果の現地普及
- ③花き優良種苗の供給
- ④花き指導者、生産者に対する指導

2. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1中課題 1)小課題 (1)試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I ブランド化のための技術開発				
1 キクの系統選抜と効率的種苗生産技術開発	花きチーム		H25～27	県単
1)キクの系統選抜				
(1)優良個体の品質評価と選抜				
(3)小ギク交配系統の選抜				
2)効率的種苗生産技術開発				
(1)少量培地による親株管理				
2 露地及び簡易施設による低コスト栽培技術の確立	花きチーム		H25～27	県単
1)露地における低コスト栽培技術				
(1)ヤマジノギクの育種				
(2)ヤマジノギク出荷期拡大技術の確立				
3)簡易施設における低コスト栽培技術				
(1)アイアン系ストックの12月出荷技術の確立				
(3)アイアン系ストックの八重鑑別率の向上				
3 ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立	花きチーム		H26～28	県単
1)優良系統の選抜				
2)セル成型トレイを用いた苗生産技術の開発				
(2)地下茎の保存温度及び保存期間の検討				
3)生理解明				
(1)量販対応型栽培における施肥量の検討				
(2)慣行栽培における施肥量の検討				
4 特色のあるオリジナルトルコギキョウの育成と利用拡大	花きチーム		H26～28	県単
1)わい性トルコギキョウの育種と栽培技術の確立				
(3)鉢物用品種の栽培技術の確立				
2)切り花トルコギキョウの育種と栽培技術の確立				
(2)有望品種の選定				
(3)フザリウム属菌による立ち枯れ性病害対策				
II マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1 花き類の難防除害虫(ミナミキイロアザミウマ)防除技術の確立	花きチーム	病害虫チーム 中央農総研	H25～27	県単、委託
1)病害虫診断と新病害虫の同定				
2)病害虫の効率的防除法確立				
(1)バラのアザミウマ類防除				
(2)キクのアザミウマ類防除				
(4)キクのミナミキイロアザミウマ防除技術の確立				
(6)ホオズキモザイク病の防除法確立				
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
1 地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立 ～県内資源を活用した施設花きの生産性向上技術～	花きチーム	三和酒類(株)	H27～29	県単
1)大麦焼酎粕の施用技術の確立				
(1)トルコギキョウの施用技術の確立				
(2)アルストロメリアの施用技術の確立				
(3)土壌病害虫抑制効果の解明				
2)杉バークを利用した少量培地栽培技術の確立				
(1)ハボタンの栽培技術の確立				
(2)アスターの栽培技術の確立				
(3)バラの栽培技術の確立				
(4)その他有望品種の選定				
2 施設内環境制御技術の確立(H25～27)	花きチーム		H25～27	県単
1)バラの施設内環境制御技術の検討				
(1)炭酸ガス及び超微粒ミスト施用効果と施設内環境モニタリング				
2)キクの施設内環境制御技術の検討				
(1)炭酸ガス及び超微粒ミスト施用効果				
○その他試験、品種保存	花きチーム			
2)スイートピーの育種				
(1)新品種の育種と選抜				
3)シュッコンアスターの品種保存				
4)シンテッポウユリの品種保存				
5)センリョウの品種保存				

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
花きグループ平成26年度試験研究成績書	H28. 3. 30	110	50 (CD)

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
甲斐克明・吉松 修治・國本忠正	量販用輪ギク(エコマム)年4作生産 方式の経営評価	27年度九沖農 研成果情報		野菜花 き15

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27. 8. 27	園芸学会九州支部	甲斐克明	バラの複合環境制御技術の検討 ー炭酸ガス施用およびミストの 効果
H27. 8. 27	園芸学会九州支部	佐保 学	ホオズキ栽培における育苗方法 の改善
H27. 12. 14	生態と防除研究会	米田恵美	大分県で問題となっている花き 類の病害について
H28. 3. 28	日本応用動物昆虫学会	米田恵美	施設輪ギクにおけるミナミキイ ロアザミウマの発生消長と各種 薬剤の殺虫効果

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
第2回研究情報報告会	H28. 1. 8	県庁本館	1	40

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考 (共催、要請機関等)
H27.6.5	わい性トルコギキョウワーク ショップ	花きグループ	20	研究普及課 (広域指導普及班)
H27.6.11	ホオズキ栽培研修会	佐伯市	50	園芸活性化協議会
H27.6.26	切り花の少量培地栽培定植前 研修会	花きグループ	34	研究普及課 (広域指導普及班)
H27.7.6	西部キク部会ウイルス病対策 説明会	玖珠町	30	病害虫チーム
H27.9.3	キク生産者研修会(栽培)	花きグループ	20	園芸振興班
H27.9.3	キク生産者研修会(病害虫)	花きグループ	20	園芸振興班
H27.10.28	花き園芸趣味の講座	別府市	40	主催
H27.11.20	花き園芸趣味の講座	別府市	40	主催
H27.11.27	トルコギキョウ中山間地合同 研修会	花きグループ	15	研究普及課 (広域指導普及班)
H27.12.17	スイートピー生産者研修会	豊後大野市	45	花き生産者協議会
H27.12.22	花き園芸趣味の講座	別府市	42	主催
H28.1.17	トルコギキョウ栽培研修会	花きグループ	58	研究普及課 (広域指導普及班)
H28.2.5	アルストロメリア生産者研修 会	花きグループ	30	大分県花き生産者協 議会
H28.3.9	花き園芸趣味の講座	別府市	40	主催

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入れ人数
生産者	10	133
団体等職員	1	15
普及指導員	4	13
学生	0	0
児童・生徒	2	45
海外からの視察者	5	111
その他	37	560
一般来場者	1158	2582
計	1217	3459

※大学

※小中高校

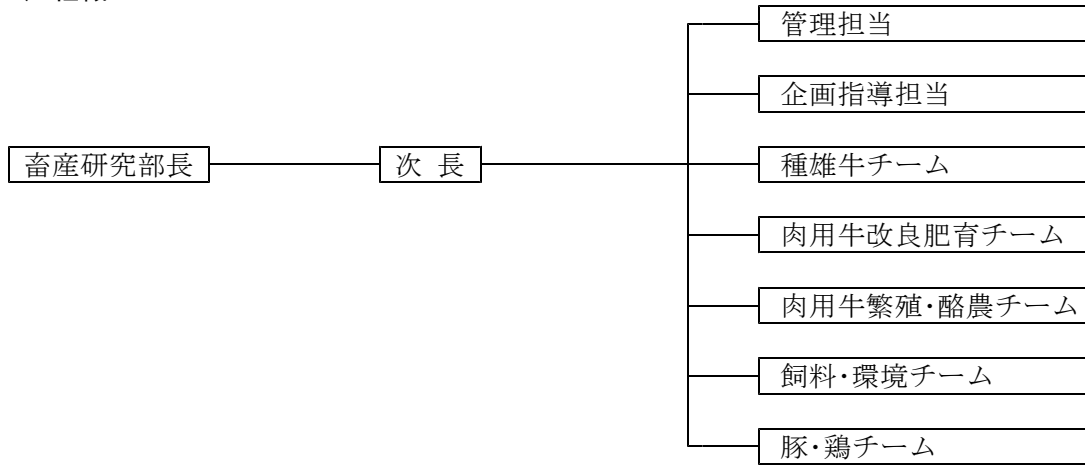
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
露地及び簡易施設による低コスト栽培技術の確立	ヤマジノギクの出荷量が少なくなる時期（10月中下旬）に開花する系統を育成する。	育種で得られた優良な8系統について県内7カ所の産地で試作に供した。生育期から開花期にかけて、現地調査、現地検討を行い、10月中旬咲きの特に優れた1系統を栽培系統として選定した。
特色のあるオリジナルトルコギキョウの育成と利用拡大	オリジナルトルコギキョウであるチェリービーの利用拡大を図る。	6月にチェリービー研究会を組織し、定期的に合同巡回、栽培検討会を開催することで普及員、農家双方の技術レベルの向上を図った。また、新たな作型として、2月（バレンタインデー）出荷に取り組んだ。

II-5 畜産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長			1					1	
次長		1	1					2	
管理担当		4						4	
企画指導担当			5					5	広域普及指導員3
種雄牛チーム			2	2	2			6	
肉用牛改良肥育チーム			3	2	2			7	
肉用牛繁殖・酪農チーム			5	5	2			12	
飼料・環境チーム			4	4				8	
豚・鶏チーム			6	2	3	1		12	
計		5	27	15	9	1	0	57	

(3) 業務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給
- ⑥家禽の育種並びに飼養管理技術

2. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 農林水産業を支える技術開発 ①ブランド化のための技術開発				
②マーケット起点のものづくりを支える技術開発 (良食味、機能成分を含む牛肉生産技術の検討)	肉用牛繁殖・酪農		H27～29	県単
(1) イネWCS、飼料用米を活用した「豊後・米仕上牛」のブランド力強化と生産性向上 (「おおいた冠地どり」等鶏の改良及び飼養管理技術)	豚・鶏	きのこグループ・大分県種茸農業協同組合	H26～28	県単
(2) 規格外乾しいたけを利用した高品質な「冠地どり」の作出 (3) 「おおいた冠地どりシャボン」の開発 ～精巢除去による長期肥育技術の研究～ (4) 「おおいた冠地どり」の安定生産技術の確立 ～精液の凍結保存技術の研究～	豚・鶏 豚・鶏		H27～29 H27～29	県単 県単
③力強い担い手を育成するための技術開発 (牛の体内受精移植技術の確立)	肉用牛繁殖・酪農		H25～27	県単
(5) 乳牛の雌選別精液を用いた人工授精の受胎率向上に関する研究 (牛の体外受精移植技術の確立)	肉用牛繁殖・酪農		H27～29	県単
(6) 酪農生産基盤強化に向けた黒毛和種体外受精移植技術の確立および乳牛の受胎環境改善方法の検討 (豚凍結精液等利用技術の確立)	肉用牛繁殖・酪農		H27～29	県単
(7) ウシ凍結精液による人工授精技術の修正と高度化 (子牛の低コスト生産技術の検討)	プロジェクト(種雄牛、改良、肉酪、豚鶏)		H25～H27	県単
(8) 焼酎粕濃縮液とイネ発酵粗飼料を活用した肉用牛子牛育成技術の開発 (高繁殖能力の母豚群の作出)	飼環、肉農	(株)アグリサポートあじむ・(独)九州大学	H25～H27	受託
(9) 生産者の所得向上を目指した「スーパー母豚」自家農場作出システムの構築 (10) 種豚の系統分類とその保存・利用に関する研究	豚・鶏 豚・鶏		H26～28 H27～29	県単 県単
④地球温暖化・環境対策等の技術開発 (11) 乳牛の体温動態に応じた暑熱対策システムの開発(家畜体温監視システムを用いた効率的な牛冷却システムの開発)	肉用牛繁殖・酪農	(株)リモート・産業科学技術センター	H27～29	県単
(安全・安心で環境に優しい飼料生産技術の開発) (12) 強酸性化草地の生産性回復技術の確立	飼料・環境	(独)九沖農研センター	H27～29	県単
⑤地域資源の活用と省エネルギーの開発技術 (自給飼料による肉牛生産技術の検討)	飼料・環境	(独)九沖農研センター、九州各県	H26～27	受託・県単
(13) 県産流通粗飼料における品質評価法の確立 (未利用資源の牛への飼料化技術の確立)	肉用牛繁殖・酪農	大分県酪・(有)大分県酪農振興公社	H27～29	県単
(14) 地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立 ア. 乳用牛に向けた新TMRの開発及び給与試験 (県産自給飼料及び製造粕類を取り入れた新しい発酵TMRの開発)	豚・鶏		H27～29	県単
(未利用資源の豚への飼料化技術の確立) (15) 地域農産物「甘太くん」の規格外品を給与した地域銘柄豚の作出技術の開発	豚・鶏		H27～29	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立 (優秀種雄牛の造成)	肉用牛改良肥育		長期	県単
(1) 種雄牛検定 ア. 直接法 イ. 現場後代検定法	肉用牛改良肥育 肉用牛改良肥育		長期	県単
(2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証 (牧草・飼料作物の優良品種・系統の選定)	肉用牛改良肥育		長期	県単
(3) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験 ア. とうもろこし イ. イタリアンライグラス ウ. ソルガム	飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境	(独)九沖農研センター、九州各県 (独)九沖農研センター、九州各県 (独)九沖農研センター、九州各県	S55～長期 S55～長期 S55～長期	県単、受託 県単、受託 県単、受託
(系統造成豚の長期維持と改良及び優良種子豚等の供給)	豚・鶏		H19～長期	県単
(4) 原種豚の改良維持及び増殖 ア. ランドレース種の系統維持・増殖 イ. 大ヨークシャ種の改良・増殖 ウ. デュロック種の能力維持	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏		H19～長期 H19～長期 H21～長期	県単 県単 県単
(「おおいた冠地どり」等原種鶏の改良と優良種苗等の安定供給)	豚・鶏	熊本農研センター、宮崎畜試	H元～長期	県単
(5) 原種鶏の系統維持及び増殖 ア. 「豊のしゃも」原種鶏 イ. 「おおいた冠地どり」原種鶏 ウ. 「おおいた烏骨鶏」原種鶏	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏	熊本農研センター、宮崎畜試 熊本農研センター、宮崎畜試 熊本農研センター、宮崎畜試	H元～長期 H元～長期 H元～長期	県単 県単 県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

なし

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
藤田 達男	肉用牛繁殖技術シンポジウムに参加して	畜産技術	2015年11月号	35-39
Takahiro NISHIMAKI, Takayuki IBI, SIQINTUYA, Naohiko KOBAYASHI, Tamako MATSUHASHI, Takayuki AKIYAMA, Emi YOSHIDA, Kazumi IMAI, Mayu MATSUI, Keichi UEMURA, Hisayoshi ETO, Naoto WATANABE, Tatsuo FUJITA, Yosuke SAITO, Tomohiko KOMATSU, Hiroshi HOSHIBA, Hideyuki MANNEN, Shinji SASAZAKI and Tetsuo KUNIEDA	Allelic frequencies and association with carcass traits of six genes in local subpopulations of Japanese Black cattle	Animal Science Journal	(2016) 87,	469-476
藤田 達男	分娩事故を減らして分娩管理が楽になるツール「牛温恵」	Dairy Japan	2016年3月号	18-23

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.8.27	第78回九州農業研究発表会	○阿部菜奈子 日高 康志 その他13名	サイレージ水分計開発のためのロールペール密度測定方法の検討と密度分布調査
		○矢崎 竜 三輪 友樹 倉原 貴美 藤田 達男	「豊味(うまい)の証」豊後牛肉生産技術の確立 ー飼料用米給与による高オレイン酸含有牛肉生産技術の確立ー
		○志村 英明 衛藤 央好 利光 昭彦 安高 康幸 揖斐 隆之	「豊味(うまい)の証」豊後牛肉生産技術の確立 ー牛肉中のオレイン酸含有率を取り入れた産肉能力育種手法の検討ー
H27.9.12	日本畜産学会第120回大会	○岡崎 哲司 佐藤 邦雄 川部 太一	卵黄抗体の豚精液希釈液への添加が保存精子とその後の繁殖成績に及ぼす影響
H27.10.16	平成27年度獣医学術九州地区学会	○倉原 貴美 渡辺 竜二 藤田 達男	黒毛和種における、新たな過剰排卵処理(ワンショット)法と現地採卵技術を組み合わせ、地域の遺伝資源活用型種雄牛造成
H27.10.28	第41回豚の繁殖衛生セミナー	○岡崎 哲司 佐藤 邦雄 川部 太一	L-Carnitine添加が豚凍結融解精子に及ぼす影響
H27.11.27	第64回大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	○澤野 貴之 安達 聡 渡辺 竜二 矢崎 竜 田中 伸幸 倉原 貴美 藤田 達男	経膈採卵及び雌選別精液を用いた体外受精による乳用後継牛生産の新たな取り組み
		○酒井 奏 鶴岡 克彦 倉原 貴美 金丸 英伸 日高 康志 藤田 達男	周年放牧によって得られた黒毛和種去勢牛の産肉成績
		○石本 歩 塩崎 洋一 手島 久智	肥育飼料一本化体系における雌牛の枝肉成績向上の取り組み
		○波津久香織 阿南加治男 川部 太一	オス鳥骨鶏の有効利用をめざして(第1報)
H28.3.29	日本畜産学会第121回大会	○鶴岡 克彦 倉原 貴美 酒井 奏 阿部菜奈子 日高 康志 高橋 秀之 後藤 貴文	麦焼酎粕濃縮液と稲WCSを混合した発酵飼料の黒毛和種仔牛への給与が骨格筋タンパク質分解関連遺伝子発現に及ぼす影響

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	H27.11.27	大分県庁新館大会議室	4	100

4. 研究成果の普及、技術指導(1/2)

ア 畜産後継者養成研修

開催月日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月14日～3月18日	畜産後継者	畜産後継者養成研修	部内	2人×339日	

イ 畜産経営者・技術者研修

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	地域	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月20日	技術者研修	酪農技術研修会(日出)	東部	27	
4月21日	技術者研修	酪農技術研修会(日田)	西部	26	
6月04日	技術者研修	肉用牛改良研修(I)	県内	80	大分県肉用牛改良組合連合会・大分県家畜人工授精師協会
9月04日	技術者研修	草地更新実演研修会	県内	15	
1月27日	技術者研修	肉用牛改良研修(II)	県内	100	大分県肉用牛改良組合連合会・大分県家畜人工授精師協会

ウ 受託研修

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月24日	受託研修	養豚技術・経営指導研修	部内	1	畜産協会
5月11日	受託研修	獣医師職新任者研修(家畜防疫)	部内	9	畜産振興課
5月18日	受託研修	新採用普及職員研修	部内	4	研究普及課
6月10日	受託研修	獣医師職新任者研修(畜産振興)	部内	4	畜産振興課
6月17日	受託研修	獣医師職新任者研修(畜産振興)	部内	3	畜産振興課
6月30日	受託研修	家畜受精卵移植講習会	部内	5	畜産振興課
7月27日	受託研修	新採用普及職員研修	部内	4	研究普及課
8月10日～25日	受託研修	日本獣医生命科学大学 学外実習	部内	2	日本獣医生命科学大学
8月17日～27日	受託研修	宮崎大学 学外実習	部内	2	宮崎大学
11月02日	受託研修	家畜人工授精講習会	部内	18	畜産振興課
11月5日	受託研修	竹田市家畜人工授精師協会研修会	部内	19	家畜人工授精師協会
2月19日	受託研修	山形県調教研修	部内	4	山形県

エ 視察研修

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
5月29日	視察研修	九州大学農学部視察	部内	21	九州大学
6月12日	視察研修	九州大学農学部視察	部内	25	九州大学
6月30日	視察研修	直入女性部いつわ会視察研修	部内	6	生産者
7月7日	視察研修	寿大学視察研修	部内	20	一般者
9月10日	視察研修	大分くりきF1肥育試験視察	部内	2	生産者
9月14日	視察研修	千歳町和牛女性部視察	部内	10	生産者
9月17日	視察研修	種雄牛視察	部内	10	生産者
9月29日	視察研修	九州大学(農学部)視察研修	部内	19	九州大学
9月30日	視察研修	韓国苑視察研修	部内	17	韓国苑
10月9日	視察研修	九州大学(農学部)視察研修	部内	33	九州大学
11月17日	視察研修	緒方町、大野町和牛女性部合同視察研修	部内	17	生産者
11月17日	視察研修	(株)ロックイン視察研修	部内	5	ロックイン
11月18日	視察研修	(株)大地視察研修	部内	5	大地
11月27日	視察研修	庄内町畜産女性部視察研修	部内	20	生産者
12月2日	視察研修	東部肉用牛育種改良組合視察研修	部内	20	生産者
1月14日	視察研修	九重飯田農協視察研修	部内	15	生産者
1月22日	視察研修	久住和牛振興会視察研修	部内	17	生産者
2月24日	視察研修	上津江畜産部会視察研修	部内	12	生産者
3月10日	視察研修	鳥取県畜試視察	部内	2	鳥取県畜試
3月16日	視察研修	熊本県菊陽町放牧組合視察研修	部内	10	熊本県生産者
3月16日	視察研修	中部振興局視察研修	部内	2	生産者
3月22日	視察研修	種雄牛視察	部内	3	生産者
3月25日	視察研修	豊後大野市家畜人工授精師協会研修会	部内	10	家畜人工授精師

(1) 講習会、研修会等の開催(2/2)

オ 職場体験

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
5月20日	職場体験	獣医系インターンシップ研修	部内	1	畜産振興課
7月15日	職場体験	三重総合高等学校久住分校研修	部内	10	三重総合久住分校
8月24日	職場体験	獣医系インターンシップ研修	部内	3	畜産振興課
8月31日	職場体験	獣医系インターンシップ研修	部内	2	畜産振興課
9月7日	職場体験	獣医系インターンシップ研修	部内	2	畜産振興課

カ 講師派遣

月 日	区分	講習会・研修会等の名称	地域	参加者数	備考(共催、要請機関等)
4月07日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
4月16日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡及び家畜人工授精師台帳	豊肥、南部	45	
4月16日	講師派遣	西部家畜人工授精師会総会	西部	60	
5月07日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
5月12日	講師派遣	西部・北部地域精液譲渡	西部・北部	40	
5月14日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
5月19日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
5月19日	講師派遣	大分県家畜人工授精師協会役員会	県内	20	
6月2日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
6月5日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
6月9日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
6月17日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
7月3日	講師派遣	竹田市精液譲渡	竹田	10	
7月7日	講師派遣	西部地域精液譲渡	西部	30	
7月10日	講師派遣	北部地域精液譲渡	北部	10	
7月13日	講師派遣	杵築市畜産品評会(枝肉の部)	東部	35	
7月13日	講師派遣	中央地域精液譲渡	中央	10	
7月14日	講師派遣	竹田市畜産共進会(直入)	豊肥	50	
7月16日	講師派遣	竹田市畜産共進会(竹田)	豊肥	50	
7月17日	講師派遣	豊肥、南部地域精液譲渡	豊肥、南部	10	
7月27日	講師派遣	竹田市畜産共進会(久住)	豊肥	50	
7月28日	講師派遣	飯田地区畜産品評会	西部	50	
7月30日	講師派遣	東部地域畜産共進会肉用種々牛の部	東部	40	
7月31日	講師派遣	家畜人工授精師協会研修会	県内	50	
8月04日	講師派遣	国東市共進会巡回	東部	30	
8月06日	講師派遣	北部地域合同研修会	北部	15	
9月02日	講師派遣	豊後大野市畜産共進会	豊肥	80	
9月4日	講師派遣	竹田市畜産品評会	豊肥	100	
9月7日	講師派遣	日田畜産品評会	西部	50	
9月09日	講師派遣	玖珠郡畜産品評会	西部	100	
9月24日	講師派遣	東部地域畜産品評会	東部	100	
9月24日	講師派遣	家畜商講習会	県内	15	
9月28日	講師派遣	大分地方畜産共進会	中部	100	
10月4日	講師派遣	県共(肉畜の部)	県内	100	
10月18日	講師派遣	県共(種畜の部)	県内	150	
12月22日	講師派遣	大分市和牛改良組合サイレンジコンクール	県内	25	
12月22日	講師派遣	大分市和牛改良組合サイレンジコンクール	県内	25	
1月21日	講師派遣	「おおい型放牧」推進セミナー	県内	50	
1月25日	講師派遣	西部家畜人工授精師会研修会	西部	20	
2月3日	講師派遣	土壌肥料若手セミナー	県外	25	
2月15日	講師派遣	杵築市肉用牛青壮年部会研修会	東部	25	
3月04日	講師派遣	畜産座談会	豊肥	70	
3月8日	講師派遣	畜産座談会	豊肥	80	
3月9日	講師派遣	畜産座談会	豊肥	100	
3月15日	講師派遣	畜産座談会	豊肥	35	

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

氏名	所属	研修内容	期間
勘田 秀明	豊後大野市	畜産後継者養成研修	4月14日～3月18日
坂本 貴志	由布市	畜産後継者養成研修	4月14日～3月18日

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
普及指導員	3	9
新任獣医師	3	16
学生	11	120
研究者	2	14
その他	3	27
計	22	186

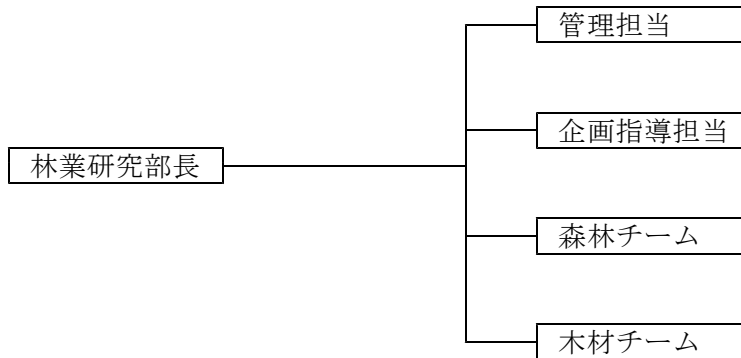
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
高能力種雄牛「平福安」の種牛性、産肉性の実証	・優良子牛生産と第11回全共（平成29年）における平福安産子の雌牛群による種牛性（体積、均称、品位、資質）及び肥育牛による産肉性（枝肉重量、ロース芯面積、BMS）の高能力性を実証する	・凍結精液譲渡813本。パンフレット、マニュアルによる広報に努め、雄の生産頭数は確保できた。子牛マニュアルの指導により発育は良好と判断できた。 ・H29年度開催の第11回全共（肉牛の区）での好成績をあげるため、また一般肥育技術の向上なため肥育マニュアルでの指導を徹底する。この成果を基に凍結精液の県内外への譲渡実績の向上を図る。
黒毛和種肥育牛における肥育前期の高蛋白飼料給与体系の確立	・発育改善に向けて新たな給与体系の実証に取り組んでいる農場において、発育状況調査等を行い、肥育前期における蛋白質の給与水準が発育に及ぼす影響を検証する。	・5月、9月、12月、1月の4回、現地に入り体重測定、血液検査、超音波検査を実施。H26年10月導入群は1年後の体重：平均598kg ・肥育前期での発育改善効果は認められたものの、肥育中期以降の発育が伸び悩んだので、原因究明を行う必要がある。また、牛のルーメン生理により適した蛋白質資材の利用について調査する必要がある。
耕作放棄地解消のためのレンタカウ等の現地支援	レンタカウ導入を契機とした耕作放棄地の解消及び「おおいだ型放牧」の普及を図る。	・中津市の荒廃茶園にレンタカウ2頭を貸し出した。レンタカウによる放牧と枯れた茶木の除去により、放牧地は整備できた。 ・バヒアグラスについては、10月が殆ど降水が無かったため、生育不良であった。引き続き、関係機関と連携して、バヒアグラスを主体とした草地整備を支援する。
「おおいだ冠地どり」の銘柄確立と出荷羽数の拡大	○飼養管理技術を確立して商品の均一化を図り、また県産飼料米の給与により特色有る冠地どり肉を生産し、銘柄確立と出荷羽数の拡大を図る。	・今年度は5戸の巡回指導を実施し、問題点の把握、関係機関との連携や飼養管理指導を実施した。 ・飼養管理講習会を開催し、飼料米、カボス、乾しいたけ給与等の推進を行った。 (畜産研究部H28年3月末譲渡実績：49,918羽、種卵74,360個)

II-6 林業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織 \ 職種	職員					計	備考
	事務	技術	技師	労務技師	業務技師		
部長		1				1	
管理担当	2					2	
企画指導担当		2				2	(兼)広域普及指導員1名
森林チーム		5	1		1	7	
木材チーム		6(1)				6(1)	(兼)デザイン担当1名
計	2	14(1)	1	0	1	18(1)	

(3) 業務

- ① 育種・育林技術の開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

2. 試験研究課題

試験研究課題	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1中課題 1)小課題 (1)試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、儲かる農林水産業を実現するための研究開発				
1 マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1) 大径スギ材の有効活用技術の開発				
(1)県産スギ大径材の有効利用技術に関する研究－心去構造材－	木材チーム	なし	H27～29	県単
(2)家具利用に向けた県産スギ材の曲げ加工に関する研究	木材チーム	なし	H27～28	県単
2) 県産スギ材の新用途開発				
(1)枠組壁工法建築物の県産材利用に向けた検討	木材チーム	大分大学	H26～28	県単
(2)県産材を用いた直交集成板(CLT)の開発に関する研究	木材チーム	大分大学	H27～29	県単
2 力強い担い手を育成するための技術開発				
1) 優良品種による森林造成				
(1)スギ奨励品種さし木苗の増産に関する研究	森林チーム	なし	H27～29	県単
2) 森林施業技術の高度化・低コスト化				
(1)省力造林用コンテナ苗の育苗技術の開発	森林チーム	森総研 九州大学外	H26～28	県単・受託 (農水省)
3 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
2) 森林の公益的機能保全				
(1)災害に強い森林づくりのためのGISを用いたマップ化に関する研究	森林チーム	なし	H26～28	県単
(2)ニホンジカの誘引技術に関する研究	森林チーム	なし	H27	県単
4 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
1) 未利用森林資源の新用途開発				
(1)木質バイオマスの効率的エネルギー利用に関する研究	木材チーム	なし	H26～28	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
2) 森林吸収源対策				
(1)スギ花粉発源地域推定事業	森林チーム	なし	H27	受託 (全林協)

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	項数	部数
「早生樹を用いた短伐期林業の手引き (コウヨウザン・チャンチンモドキ)」	H27.4	16	300
平成26年度林業試験場年報(第57号)	H27.8	78	200
林研だより(第77号)	H28.2	9	HP

注)HP:ホームページ上で公開

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
城井 秀幸	初の九州森林学会との共同で開催した木材学会九州支部大会(大分)を振り返って	木科学情報	22巻3号 (2015)	37-38
佐藤 嘉彦	マルチキャビティコンテナにさし付けたスギ在来品種の時期別発根率	九州森林研究	No.69 (2016)	印刷中
長尾 嘉昭	GISを用いた災害に強い森林づくりのためのゾーニングの試み(Ⅱ)	九州森林研究	No.69 (2016)	印刷中
松本 純	時期別に植栽したコンテナ苗の活着と成長	九州森林研究	No.69 (2016)	印刷中
藤田紘史郎	イチヨウ葉の生産に向けた総合的な取り組み	九州森林研究	No.69 (2016)	印刷中

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.10.6	第71回九州森林学会大会	藤田紘史郎	イチヨウ葉の生産に向けた総合的な取り組み
H27.10.6	第71回九州森林学会大会	長尾嘉昭	災害に強い森林づくりのためのゾーニングの試み
H27.10.6	第71回九州森林学会大会	佐藤嘉彦	スギ在来品種のさし付け時期別発根率
H27.10.6	第71回九州森林学会大会	松本純 佐藤嘉彦 (山本純也)	一貫作業システムにおけるコンテナ苗の生長について
H27.10.6	日本木材学会第22回九州支部大会	河津渉 城井秀幸	スギ8mの製材品の特性
H27.10.6	日本木材学会第22回九州支部大会	小谷公人 城井秀幸 河津渉	大分県産製材品の強度性能に関する研究(Ⅱ) ーヒノキ製材品の各種強度性能ー
H27.10.6	日本木材学会第22回九州支部大会	山本幸雄	クスギの熱処理による材質変化

※発表者名欄の()内は共同研究等の共同研究者

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成27年度 企業技術研修	H27.11.26	林業研究部	口頭発表:1課題 特別講演:1課題	35
平成27年度 農林水産研究指導センター 林業研究部 研究発表会	H28.2.16	林業研究部	口頭発表:4課題 特別講演:1課題	80

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考 (共催、要請機関等)
H27. 7. 8 H27. 7. 15 H27. 7. 22	農業大学校講義	農業大学校	52	農業大学校
H27. 7. 24	ふれあい森林講座	林業研究部	62	林業研究部
H27. 8. 5	優良材生産技術研修	大分県林業研修所	7	(公財) 森林ネットおおいた
H27. 9. 18	林業種苗生産事業者講習会	大分県庁	12	大分県
H27. 10. 13 H27. 10. 14	試験研究機関における実践研修	林業研究部	7	大分県
H27. 10. 16	フォレストワーカー集合研修(3年目)	大分県林業研修所	11	(公財) 森林ネットおおいた
H27. 10. 26	フォレストワーカー集合研修(3年目)	大分県林業研修所	12	(公財) 森林ネットおおいた
H27. 10. 29	大分県森林施業プランナー研修会	大野郡森林組合	17	大分県森林組合連合会
H27. 11. 5 H27. 11. 6	林業全般基礎研修(Ⅱ)	林業研究部他	12	大分県
H27. 11. 6 H27. 11. 11	日田高等学校スーパーサイエンスハイスクール	日田高等学校	32	日田高等学校
H27. 11. 17	シカの生態および被害防除に関すること	林業研究部	7	広島県東広島市
H27. 11. 26	企業技術研修会 スギ材を家具に活用すること	林業研究部	35	林業研究部
H28. 1. 9	平成27年度中高層建築物の担い手育成事業(九州地区)	大分センチュリーホテル	60	(一社) 木を活かす建築推進協議会
H28. 1. 28	おおいた早生樹研究会 シンポジウム	林業研究部	85	おおいた早生樹研究会
H28. 3. 18	平成27年度佐伯林業活性化研修会	佐伯市健康福祉センター	30	佐伯地区流域林業活性化センター
H28. 3. 22	大分西部流域地域材需要拡大研修会	大分西部流域林業活性化センター	20	大分西部流域林業活性化センター

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	9	9
団体等職員	202	567
普及指導員	9	16
学生	4	86
児童・生徒	1	62
海外研修者	0	0
その他	24	46
計	249	786

③ 企業支援

区分	件数	金額(円)
依頼試験	127	3,065,519
機械貸付	649	563,570
技術相談	230	—
企業訪問	36	—

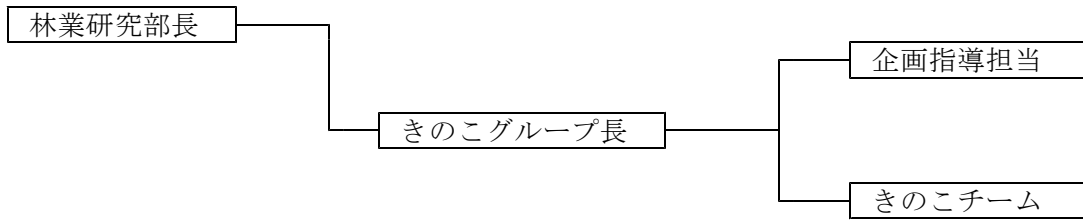
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
早生有用広葉樹等を活用した短伐期林業に関する研究	短伐期林業に適すると期待される早生樹の導入を推進する。	県西部において、「おおいた早生樹研究会」を立ち上げ、実証林の設定(3箇所)と研修会を開催し、早生樹の現地普及を図った。

II-7 きのごグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	
企画指導担当			3					3	広域普及指導員 2名
きのごチーム			5			1		6	
計			9			1		10	

(3) 業務

- ① シイタケを始めとするきのご類の栽培技術の改善・開発
- ② 栽培きのご類の育種技術による品種の改良・開発
- ③ 温暖化に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発
- ④ クヌギチップを利用した菌床シイタケ及びキクラゲ栽培技術の研究
- ⑤ 病虫害等の防除技術の研究・普及
- ⑥ きのご類の分類・同定
- ⑦ 有用きのご類の遺伝子収集・保存による育種素材の確保
- ⑧ 研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑨ 新規参入者の研修・技術指導
- ⑩ 栽培技術情報の収集・管理と情報発信

2. 試験研究課題

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、儲かる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
(1) 有用きこの類の品種改良				
1) シイタケの優良品種の開発	きのこチーム		H26～(30)	県単
2) ナメコの優良品種の開発	きのこチーム		H26～(30)	県単
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
(1) シイタケの原木栽培技術の確立				
1) 原木乾シイタケの冬期発生操作技術に関する研究	きのこチーム		H25～27	県単
2) 移動式散水施設を利用したほだ木育成技術の開発	きのこチーム		H25～27	県単
3) 原木生シイタケ栽培における冬期の生産量向上技術に関する研究	きのこチーム		H26～28	県単
4) 乾シイタケ栽培における効率的発生操作技術の開発 － 低温性品種の単収向上 －	きのこチーム		H26～30	県単
5) アシストスーツの現場実証試験	きのこチーム		H26～27	国庫
(2) シイタケの菌床栽培技術の確立				
1) 菌床シイタケ栽培の省エネルギー制御技術の開発	きのこチーム		H27～29	県単
4 きこの類の病虫害防除技術の確立				
(1) きこの類栽培における害虫類の生態解明と防除技術の開発 － ハラアカコブカミキリの防除法の確立 －	きのこチーム		H26～28	県単
5 地域資源の有効活用と省エネルギーの技術開発				
(1) クヌギチップを利用した菌床キクラゲ栽培技術の確立	きのこチーム		H25～27	県単
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1 育種素材の収集保存				
(1) 有用きこの類の遺伝子収集及び保存	きのこチーム		H元～	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
林業研究部きのこグループ業務年報(第26号)	H27年12月	66	300
情報誌「くらんぶ」第45号	H28年1月	7	2,500
研究報告書第9号「ほだ木を食害するシイタケオオヒロズコガ類の防除法」	H27年9月	19	100

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
有馬 忍	除袋後および休養中の水分管理条件が菌床シイタケの発生に及ぼす影響	九州森林研究	投稿中	
川口真司・有馬 忍	培地基材の粒度組成および培地含水率がアラゲキクラゲの発生に及ぼす影響	九州森林研究	投稿中	
有馬 忍・篠原 弘亮・キム オッキョン・根岸寛光	シイタケ腐敗病菌 <i>Ewingella americana</i> の菌床シイタケを用いた簡易病原性検定方法の開発	日本きのこ学会誌	23 (4)	166-172

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.9.5	日本きのこ学会第19回大会	宮澤紀子・江口文陽・有馬 忍	大分県産乾シイタケの嗜好特性
H27.9.6	日本きのこ学会第19回大会	宮澤紀子・山下和久・有馬 忍	真空保存容器を用いて水戻した乾シイタケの嗜好性
H27.9.21	日本昆虫学会第75回大会	永野 昌博・山崎唯衣・村上 康明	ハラアカコブカミキリのほだ木の種類、サイズ、腐朽段階に対する産卵選好性
H27.10.6	第71回九州森林学会大会	有馬 忍	除袋後および休養中の水分管理条件が菌床シイタケの発生に及ぼす影響
H27.10.6	第72回九州森林学会大会	川口真司・有馬 忍	培地基材の粒度組成および培地含水率がアラゲキクラゲの発生に及ぼす影響
H27.10.6	第73回九州森林学会大会	村上 康明	ハラアカコブカミキリの防除法(1)
H28.3.28	第66回日本木材学会	宮澤紀子・江口文陽・飯田千恵美・有馬 忍	大分県産乾シイタケの品種の違いが嗜好性におよぼす影響

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成27年度きのこグループ研究発表会	H28.1.29	きのこグループ	口頭発表 2 情報提供 1 特別講演	74

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.7.22	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ1)	きのこグループ	5	研究普及課
H27.7.23	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ2)	きのこグループ	4	研究普及課
H28.7.24	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ1)	きのこグループ	3	研究普及課
H27.9.29	広域普及員プロジェクト研修	きのこグループ	9	
H27.10.29	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ3)	きのこグループ	4	研究普及課
H27.10.30	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ4)	きのこグループ	3	研究普及課
H28.2.4	普及員養成試験研究実践研修(乾しいたけ5)	きのこグループ	5	研究普及課
H28.2.22	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ2)	きのこグループ	4	研究普及課
H28.2.23	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ3)	きのこグループ	4	研究普及課
H28.2.24	普及員養成試験研究実践研修(生しいたけ4)	きのこグループ	3	研究普及課

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.5.27	H27年度林業普及技術等習得研修	県庁	5	研究普及課
H27.6.9	H27年度第1回椎茸技術者会議	きのこグループ	17	
H27.10.2	林業全般基礎研修(Ⅱ)	きのこグループ	12	林務管理課
H27.10.22	林業全般基礎研修(Ⅰ)	きのこグループ	9	林務管理課
H27.12.25	H27年度第2回椎茸技術者会議	きのこグループ	14	

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第7期)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.7.30	大分しいたけ源兵衛塾開講式・第1回研修会	きのこグループ	40	林産振興室
H27.10.17	大分しいたけ源兵衛塾第2回研修会	きのこグループ	29	林産振興室
H27.11.6	大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会	きのこグループ	34	林産振興室
H28.1.29	大分しいたけ源兵衛塾第4回研修会・卒塾式	きのこグループ	33	林産振興室

エ. 新規参入者研修(栽培体験コースを含む)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.5.28	H26年度原木しいたけ栽培新規参入者ステップアップ研修会	東部振興局	25	
H27.9.6	原木しいたけ栽培新規参入者研修第1回研修会	きのこグループ	44	林産振興室
H27.9.10	「喜権会」しいたけ生産研修(北部局新規参入者フォローアップ研修)	北部振興局	15	
H27.10.16	東部地区新規参入者ステップアップ研修	東部振興局他	36	
H27.10.18	原木しいたけ栽培新規参入者研修第2回研修会	きのこグループ他	35	林産振興室
H28.2.9	原木しいたけ栽培新規参入者ステップアップ研修会(北部・東部合同)	豊後高田市	40	
H28.2.21	原木しいたけ栽培新規参入者研修第3回研修会	きのこグループ	32	林産振興室
H28.3.13	原木しいたけ栽培新規参入者研修第4回研修会	きのこグループ	32	林産振興室

オ. きのこと栽培研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.28	H26年度竹田原木キクラゲ本舗定期総会	竹田市	12	
H27.6.19	ほだ木活着調査及び研修会	九重町	14	
H27.6.23	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	臼杵市	100	
H27.7.8	発生量調査、ほだ木活着調査及び研修会	中津市	11	
H27.7.15	しいたけ原基塾研修会第1回研修会	OSK椎茸流通センター他	26	豊肥局
H27.7.24	サル被害対策関係者現地協議	豊後大野市	9	
H27.8.27	OSK久大支部連合会 小組合長会議、集荷運動反省会	日田市	46	
H27.9.2	OSK国東支部「低温菌シイタケの良品・増産講習会	国東市	120	
H27.9.8	ほだ木活着伸長調査及び研修会	九重町	14	
H27.9.25	九重生椎茸出荷組合組合員研修会	九重町	11	
H27.9.25	豊後大野市椎茸振興会緒方支部栽培研修会	きのこグループ	14	
H27.10.27	中津市原木生しいたけ研究会	中津市	10	
H27.10.27	しいたけ原基塾研修会第2回研修会	きのこグループ	22	豊肥局
H27.11.6	緒方冬原小組合栽培研修会	豊後大野市	14	
H27.12.2	豊後大野市椎茸振興会三重支部栽培研修会	きのこグループ	9	
H27.12.8	椎茸生産技術研修会(直入会場)	竹田市	26	
H27.12.8	椎茸生産技術研修会(緒方会場)	豊後大野市	17	
H27.12.25	サル被害対策現地における電気柵設置	豊後大野市	10	
H28.1.20	しいたけ原基塾研修会第3回研修会	きのこグループ他	26	豊肥局
H27.1.29	ハウスを活用した良品づくり研修会	豊後大野市	11	
H28.1.30	JA玖珠九重生椎茸部会 平成27年度第35回総会	玖珠町	51	
H28.2.19	大分県椎茸農協竹田地区連合会女性部総会	OSK竹田支部	38	

カ. 人材育成研修等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.7.4	お仕事発見ランドinNBU県央空港「椎茸農家のお仕事ブース」	豊後大野市	50	
H27.7.17	農業大学校講義	きのこグループ	11	
H27.7.24	農業大学校講義	きのこグループ	13	
H28.3.30	NBU入学前ワークキャンプにおけるシイタケ教室	きのこグループ	48	

キ. 市場・流通関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.13	プレミアム原木生シイタケ販売報告・意見交換会	大分県農協竹田事業部	48	森産業
H27.6.8	H27大分県生椎茸生産流通懇談会役員会	県庁	7	
H27.6.23	H27生椎茸生産流通懇談会総会	玖珠総合庁舎	15	
H27.6.24	H27大分県椎茸振興協議会通常総会	大分市	30	
H27.10.5	H27生椎茸生産流通懇談会第2回役員会	県庁	8	
H27.10.22	プレミアム原木生椎茸出荷推進式	JA大分竹田事業所	33	森産業

ク. 品評会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.20	第9回東部地区乾椎茸品評会審査会	国東市	16	
H27.4.20	第7回竹田市乾椎茸品評会審査会	OSK竹田支部	20	
H27.4.21	第4回豊後大野市椎茸品評会審査会	豊後大野市	21	
H27.4.21	第7回竹田市乾椎茸品評会表彰式	竹田市	91	
H27.4.22	第11回佐伯市乾椎茸品評会審査会	OSK県南支部	15	
H27.4.22	27年度宇佐市乾椎茸品評会審査会	宇佐市	12	
H27.4.23	第4回豊後大野市椎茸品評会表彰式	豊後大野市	169	
H27.4.24	H27中津市乾椎茸品評会審査会	中津市	10	
H27.4.25	第11回佐伯市乾椎茸品評会表彰式	佐伯市	62	
H27.4.28	H27豊後高田市乾椎茸品評会審査会	JA大分高田市事業部	7	
H27.5.8	第58回大分県乾椎茸品評会(箱物)審査会	OSK乾椎茸流通センター	23	
H27.6.2	第4回JAおおいた乾椎茸品評会審査会	JAおおいた	8	
H27.6.3	第4回JAおおいた乾椎茸品評会表彰式	JAおおいた	25	
H27.6.5-6	第58回大分県乾椎茸品評会表彰式・しいたけ祭り	大分市	830	
H27.11.16	第27回大分県生しいたけ品評会審査会	大分市	108	
H27.11.17	第27回大分県生しいたけ品評会表彰式・講演会・即売会	大分市	158	
H28.1.12	竹田市ほだ場コンクール審査会	竹田市	16	

ケ. 一般消費者関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.7.7	「乾しいたけの日」消費宣伝	大分市	517	
H27.7.11	H27生しいたけ夏期消費宣伝活動	大分市公設卸売市場	331	
H27.10.15	生しいたけ旬入り宣言式	大分市公設卸売市場	90	
H27.10.24	大分県農林水産祭	別府市	400	
H27.10.25	大分県農林水産祭	別府市	500	

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	0	0
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	0	0
児童・生徒	0	0
海外からの視察者	2	26
その他	0	0

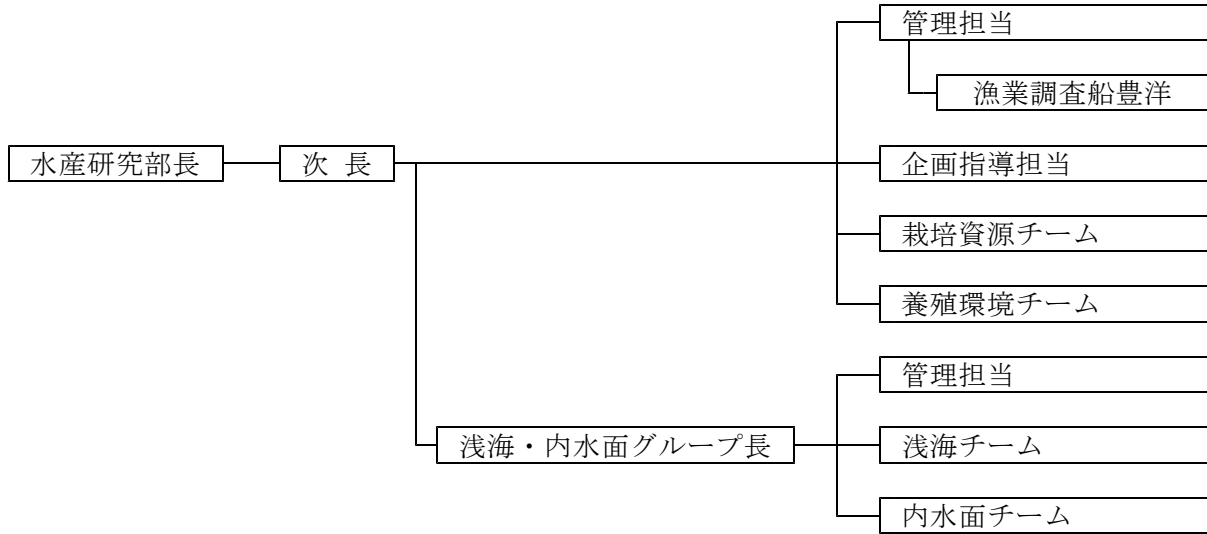
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
原木乾シイタケの冬期発生技術の確立	中温性品種の冬期発生率を向上させることにより、品質の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や現地説明会などを開催し、技術の普及定着を図る。 ・広域普及及び地域普及指導との連携により生産者の取り組みについて指導を強化する。

II-8 水産研究部（浅海・内水面グループ含む）

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年5月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考	
		事務	技術							
水産研究部	上浦	部長		1				1	海事職員 7	
		次長	1					1		
		管理担当	2	7				9		
		企画指導担当		2				2		
		栽培資源チーム		7				7		
		養殖環境チーム		7				7		
		計	5	36	0	0	0	0		41
	浅海・内水面	グループ長		1					1	
		管理担当	2						2	
		浅海チーム		8					8	
		内水面チーム		3					3	
計		5	36	0	0	0	0	41		

(3) 業務

- ① 漁業の調査研究に関すること
- ② 漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③ 水産動植物の増養殖に関すること
- ④ 漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤ 水産動物の防疫等指導に関すること
- ⑥ 水産物の利用加工等指導に関すること
- ⑦ 漁場環境保全・赤潮防止技術に関すること
- ⑧ その他水産業の技術指導に関すること

2. 試験研究課題 (1/2)

試験研究課題名	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目				
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1) 資源に関する基礎調査	栽培資源 チーム	(独) 水産総合 研究センター、 関係県	H12~	委託
(2) 豊予海峡周辺におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究	栽培資源 チーム		H27~H29	県単
(3) タチウオ資源回復推進に関する研究	栽培資源 チーム	(独) 水産総合 研究センター	H26~H30	国庫補助
(4) 釣り漁業における新たな漁法の開発	栽培資源 チーム		H26~H28	県単
1) 資源生態及び資源評価ならびに資源回復に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) 地域重要魚介類の資源動向及び回復施策に関する研究	浅海チーム	(独) 水産総合 研究センター	長期	県単
(2) 瀬戸内海におけるカレイ類の生活史循環とその阻害要因の解明	浅海チーム	(独) 水産総合 研究センター、 山口、福岡、愛 媛県	H25~H29	委託
(3) 生態系ネットワークによるアサリ資源回復・干潟生態系修復技術の開発	浅海チーム	(独) 水産総合 研究センター、 愛媛、岡山県	H25~H29	委託
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) ナマコの増殖・放流技術の開発及び環境浄化機能の検証	浅海チーム		H26~H28	県単
2) 栽培漁業の推進に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (水産研究部 豊後水道)				
(1) ヒラマサ種苗量産技術開発	栽培資源 チーム		H25~H27	県単
3) 新規養殖及び栽培対象魚種導入のための種苗生産に関する技術開発 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1) タイラギ増養殖手法開発	浅海チーム	(独) 水産総合 研究センター	H26~H28	県単
4) 海水養殖技術の開発・普及				
(1) 農林水産物輸出拡大に関わる研究開発	養殖環境 チーム		H27~H28	県単
5) 育種による優良品質の作出				
(1) ヒラメの高水温耐性品種の作出 (II)	栽培資源 チーム	養殖環境 チーム	H27~H29	県単
(2) ブリ種苗生産技術開発 (ブリ養殖業構造改革推進事業)	栽培資源 チーム		H27~H29	県単
6) 二枚貝をはじめとする魚介類の養殖技術の開発・普及				
(1) セミスマートな二枚貝養殖技術の開発と応用	浅海チーム		H26~H27	県単
7) 有用藻類の増養殖技術開発				
(1) 養殖ヒジキの品質向上と養殖用種苗供給技術の確立 (II期)	浅海チーム		H27~H29	県単
(2) ヒジキ資源の維持増大技術の開発	浅海チーム		H26~H28	県単
8) 内水面養殖魚種の種苗生産・養殖技術の開発・普及				
9) 内水面重要資源の持続的利用のための研究				
(1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査 (アユ資源)	内水面 チーム		H25~	県単

2. 試験研究課題 (2/2)

2	マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
1)	病害及び防除対策に関する研究				
(1)	陸上魚類養殖疾病対策研究	養殖環境 チーム	(独)水産総合研 究センター 東京海洋大学、宮 崎県	H26～H28	県単 委託
(2)	魚病診断と対策指導(内水面)	内水面チーム	養殖環境 チーム	H12～	国庫補助
2)	養殖飼料、餌料の品質評価及び改良に関する研究				
(1)	カボスがつなぐブランド魚創出事業	養殖環境 チーム	別府大学	H27～H29	県単
(2)	おおいた農産品を利用した高品質で抗病性を高める飼料開発	内水面チーム		H27～H29	県単
3	力強い担い手を育成するための技術開発				
4	地球温暖化・環境対策等の技術開発				
1)	漁海況速報に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1)	資源環境に関するデータの収集、情報の提供	栽培資源 チーム	(独)水産総合研 究センター	長期	県単 委託
1)	漁海況速報に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1)	資源環境に関するデータの収集、情報の提供	浅海チーム	(独)水産総合研 究センター	長期	県単 委託
2)	有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に関する研究 (水産研究部 豊後水道)				
(1)	漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 (赤潮モニタリング調査)	養殖環境 チーム	(独)水産総合研 究センター、山口 県、福岡県等、浅 海チーム	H25～H29	委託
(2)	赤潮早期予測・早期対策実証事業	養殖環境 チーム	(独)水産総合研 究センター	H27～H29	県単 委託
2)	有害プランクトンの生態及び赤潮・貝毒被害防除技術に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1)	漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 (赤潮モニタリング調査)	浅海チーム	(独)水産総合研 究センター、山口 県、福岡県等、養 殖環境チーム	H25～H29	委託
3)	養殖漁場の環境保全に関する調査研究・指導				
(1)	養殖漁場の適正利用推進調査	養殖環境 チーム		H12～	県単
4)	漁場造成技術開発 (水産研究部 豊後水道)				
(1)	磯焼け対策に関する技術開発	栽培資源 チーム		H16～	県単
4)	漁場造成技術開発 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
5)	山・川・海の環境連携に関する研究 (浅海・内水面グループ 瀬戸内海)				
(1)	森林起源の有機物・栄養塩と海洋の生態との実態解明	浅海チーム	京都大学	H26～	県単
5	地域資源の活用と省エネルギーの開発技術				
II	研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
1)	漁獲統計資料の整理				
2)	疾病診断と養殖衛生管理指導				
(1)	持続的養殖生産確保法推進事業(海面防疫対策)	養殖環境 チーム	(独)水産総合 研究センター	H12～	国庫補助 委託
3)	種苗生産供給体制の確立と支援				
4)	漁村グループを対象とした加工指導				
(1)	水産加工等高度利用化指導	養殖環境 チーム	各振興局	H26～	県単
5)	漁場環境調査				
(1)	基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査	栽培資源 チーム		H26～H28	県単
6)	栽培漁業展開のための技術指導				
7)	有用生物の駆除対策指導				
(1)	外来魚・カワウ等による食害被害軽減対策指導	内水面 チーム		長期	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
おおいたアクア・ニュースNo.41	H27.7.14	17	360
大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第5号	H27.6.30	82	200
おおいたアクア・ニュースNo.42	H28.1.29	13	360
平成26年度大分県農林水産研究指導センター水産研究部事業報告	H27.9.28	358	HPで公開

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載項
福田 穰	ブリ類の非凝集型レンサ球菌症	月刊養殖ビジネス	52(6)	3-6
Daisaku Oinaka, Naoto Yoshimura, <u>Yutaka Fukuda</u> , Azumi Yamashita, Shintaro Urasaki, Yoshinobu Wada and Terutoyo Yoshida	Isolation of <i>Lactococcus garvieae</i> showing no agglutination with anti-KG ⁻ phenotype rabbit serum	Fish Pathology	50(2)	37-43
Walissara Jirapongpaioj, Keigo Kobayashi, <u>Yutaka Fukuda</u> , Tomokazu Takano, Takamitsu Sakai, Tomomasa Matsuyama, Chihaya Nakayasu, Reiko Nozaki, Ikuro Hirono and Hidehiro Kondo	Development of consensus qPCR primers to detect cytokine genes in three amberjack species: <i>Seriola quinqueradiata</i> , <i>S. lalandi</i> and <i>S. dumerili</i>	Fisheries Science	81(5)	907-914
Tomokazu Takano, Yoshitsugu Mizuno, <u>Yutaka Fukuda</u> , Tomomasa Matsuyama, Takamitsu Sakai, Goshi Kato and Chihaya Nakayasu	Therapeutic efficacy of oral administration of fosfomycin on experimentally induced edwardsiellosis in Japanese flounder	Fish Pathology	50(3)	123-126
福田 穰	魚病問題 過去・現在・未来 ヒラメ	魚病研究	50(3)	151-152
福田 穰・津江佑哉・追中大作・和田善信・山下亜純・浦崎慎太郎・吉岡宗祐・木本圭輔・吉田照豊	抗KG ⁻ 型血清非凝集性 <i>Lactococcus garvieae</i> のブリ類に対する病原性及免疫原性	魚病研究	50(4)	200-206
木本圭輔・景平真明・畔地和久・長澤和也	九州北東部の河川上流域における流れに沿った魚類群集の変化	魚類学雑誌	62(1)	1-12
木本圭輔・景平真明・畔地和久・長澤和也	九州北東部河川のアマゴ生息域下流側における浮上稚魚の生息場所利用	魚類学雑誌	62(2)	107-119
Keisuke Kimoto, Tohru Mekata, Hiroshi Takahashi and Kazuya Nagasawa	Genetic structure of the amago and iwame forms of the red-spotted masu salmon (<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>) in the upper Ono River, northeastern Kyushu, southern Japan	<i>Aquacult. Sci.</i>	63(3)	299-309
松山知正・南 隆之・福田 穰・佐野菜採・坂井貴光・高野倫一・中易千早	海産5魚種におけるマダイリドウイルス病に対する受動免疫の効果	魚病研究	51(1)	32-35
T. Takano, T. Matsuyama, T. Sakai, Y. Nakamura, T. Kamaishi, C. Nakayasu, H. Kondo, I. Hirono, <u>Y. Fukuda</u> , M. Sorimachi and T. Iida	Ichthyobacterium seriolicida gen. nov., sp. nov., a member of the phylum 'Bacteroidetes', isolated from yellowtail fish (<i>Seriola quinqueradiata</i>) affected by bacterial haemolytic jaundice, and proposal of a new family, Ichthyobacteriaceae fam. nov.	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology	66(2)	580-585
Shusaku Otake, Kaori Wakabayashi, Yuji Tanaka and Kazuya Nagasawa	Life-cycle of <i>Choniomyzon inflatus</i> Wakabayashi, Otake, Tanaka & Nagasawa, 2013 (Copepoda: Siphonostomatoida: Nicotoidae) with the morphological descriptions of the nauplius, copepodid and adult male.	<i>Systematic Parasitology</i>	93	145-157
徳光俊二	豊後水道におけるタチウオの生物特性	水産総合研究センター叢書 沿岸漁業のビジネスモデル ビジネスモデル構築を出口とした水産研究の総合化	第2部 タチウオの生物特性と資源 第4章	32-49
Naoaki Tezuka, Masami Hamaguchi, Manabu Shimizu, Hideki Iwano, Takahiko Tawaratsumida, Shigeru Taga	Seasonal dynamics of the larval distribution and settlement of the clam <i>Ruditapes philippinarum</i> in the Suo-Nada Sea, Japan	Coastal Ecosystems	vol3	1-15

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27.7.28	卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会	中尾拓貴・内海訓弘・ 斉藤真美	マアジ人工受精卵を用いた水温別発生所要時間の推定 その2
H27.9.15	平成27年度中央ブロック資源海洋調査研究会	中尾拓貴・内海訓弘	大分県沿岸におけるマアジの産卵と潮汐の関係
H27.9.26	平成27年度日本魚病学会秋季大会	追中大作・大林和哉・福田 穰・西木一生・藤原篤志・吉田照豊	PCRによる非凝集 <i>Lactococcus garvieae</i> の診断
H27.10.10	水産海洋学会研究発表大会	中尾拓貴・内海訓弘・ 斉藤真美	マアジ卵の水温別発生所要時間の再検討
H27.10.24	第6回瀬戸内海水産フォーラム	木藪仁和	養殖魚のブランド化に必要な科学的特徴と生産基準の策定(かぼすぶり)
H27.11.8	平成27年度 日本水産学会九州支部例会	木本圭輔, 吉岡宗祐, 福田 穰	大分県における養殖ヒラメのクドア対策
H27.11.13	2015年度日本水産増殖学会第14回大会	山田英俊・田村勇司・岩野英樹・須賀光晴	クルマエビ養殖場で複合養殖したアサリの成長
H27.12.1	豊後水道研究会	中尾拓貴	豊後水道西側におけるマアジの漁況とその予測指標
H27.12.19	第5回大分自然環境研究発表会	伊藤龍星	大分県の食用藻類
H27.12.13	京都大学	橋口峻也・笠井亮秀・田村勇司・山下洋・荒井修亮	国東半島における陸起源物質負荷量の降雨に伴う短期変動
H28.2.13	鹿児島大学	崎山和昭・和西昭仁・伊藤輝昭・大形拓路・斎藤克弥	アルゴス送信機を用いたナルトビエイの移動生態に関する研究
H28.3.12	平成28年度日本魚病学会春季大会	松山知正・坂井貴光・高野倫一・河東康彦・栗田潤・佐野菜採・中易千早・安池元重・中村洋路・藤原篤志・南隆之・福田 穰・近藤秀裕・廣野育生	マダイイリドウイルスに対する抗体 応答の魚種間比較 II
H28.3.13	平成28年度日本魚病学会春季大会	米加田 徹・佐藤 純・西岡豊弘・吉岡宗祐・福田 穰	ブリ類養殖におけるベロ病原微生物のモニタリング- I - 環境中からの定量検出系の構築および大分県における調査結果-
H28.3.13	平成28年度日本魚病学会春季大会	金井欣也・辻倉正和・首藤公宏・本間利雄・松本扶規浩・菅 向志郎・高木修作・福田 穰	ハギ類由来 <i>Lactococcus garvieae</i> に認められた荚膜合成遺伝子群を有するプラスミド
H28.3.13	平成28年度日本魚病学会春季大会	福田 穰	海産魚類の疾病防除法に関する研究
H28.3.13	平成28年度日本魚病学会春季大会	横山正英・山田英俊・伊藤直樹・良永知義	エビ養殖池・覆砂域のアサリにおける <i>Perkinsus olseni</i> の感染状況
H28.3.28	平成28年度日本水産学会春季大会	石樋由香・渡部諭史・松本才絵・徳田雅治・淡路雅彦・山田英俊・田村勇司・岩野英樹	クルマエビ養殖池で複合養殖したアサリの栄養源推定

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
平成27年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	H28.1.21~22	水産会館	13	69

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催(1/2)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.4.11	豊前海における小型底びき網の漁具改良試験について	県漁協宇佐支店	40	大分県宇佐支店底曳き協議会
H27.4.11	豊前海の漁獲量を増やすための海砂保全の重要性 ～海砂採取・漁獲量とアサリの関係～	県漁協宇佐支店	40	大分県宇佐支店底曳き協議会
H27.4.11	寄藻川河口域におけるヨシエビ種苗放流の実施状況	県漁協宇佐支店	40	大分県宇佐支店底曳き協議会
H27.4.21	瀬戸内海大分県海域におけるマコガレイ体色異常魚の混入状況	日出町	25	公益社団法人大分県漁業公社
H27.4.24	放流時期と放流場所がクルマエビの放流効果に及ぼす影響	日出町	33	大分県漁業士会底曳き網漁業部会
H27.4.24	豊前海における小型底びき網の漁具改良試験について	日出町	33	大分県漁業士会底曳き網漁業部会
H27.5.21	大分県漁業学校(陸上実習:養殖技術)	姫島村	2	大分県水産振興課
H27.5.31	干潟の環境とアサリの生態に関する学習会	浅海チーム	5	ボーイスカウト大分第5団
H28.6.3	魚病及び赤潮担当者会議 (魚病診断状況、水産用医薬品等について)	水産研究部	26	
H27.6.4	豊後水道北部海区漁協支店、市との連絡会議 (カボスによる養殖魚への効果について)	白杵総合庁舎	15	
H27.6.5	豊後水道南部海区漁協支店、市との連絡会議 (カボスによる養殖魚への効果について)	佐伯総合庁舎	20	
H27.6.18	大分県漁業学校(陸上実習:養殖技術)	姫島村	2	大分県水産振興課
H27.6.24	・2014年のシラス漁獲量とカタクチ卵の出現状況 ・シラス漁獲開始時期と水温の関係	水産研究部	15	大分県漁協本店
H27.7.9	二重網を用いたアサリ稚貝保護・育成技術の開発	浅海チーム	20	豊前海地区漁業運営委員長等
H27.7.9	豊前海における漁獲物の変遷	浅海チーム	20	豊前海地区漁業運営委員長等
H27.7.10	二重網を用いたアサリ稚貝保護・育成技術の開発	日出町	23	東国東・別府湾地区漁業運営委員長等
H27.7.10	東国東海域・別府湾における漁獲物の変遷	日出町	23	東国東・別府湾地区漁業運営委員長等
H28.7.10	魚類養殖講習会 (水産用医薬品と魚病対策について)	県漁協佐伯支店	50	大分県水産養殖協議会
H27.7.23	豊の活ブリ研究会 (かぼすブリ技術指導)	県漁協本店	12	豊の活ブリ研究会
H27.8.28	かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会 (平成26年度かぼすブリ養殖試験結果報告)	佐伯総合庁舎	24	かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会
H27.9.4	松原ダム湖に生息する陸封アユを有効利用するための提案	日田市	20	日田市内水面利活用推進協議会
H27.9.4	松原ダム湖に生息する陸封アユの由来を調べるには?	日田市	20	日田市内水面利活用推進協議会
H27.9.29	ノリの採苗時期の検討	県漁協中津支店	13	北部振興局
H27.10.16	大分県漁業学校(陸上実習:養殖技術)	姫島村	2	水産振興課
H27.10.20	平成27年度マクロ養殖生産者連絡会	水産研究部	20	水産振興課
H27.10.20	大分県漁業学校 (養魚飼料学)	水産研究部	2	水産振興課
H27.10.22~23	大分県漁業学校(クルマエビ養殖版)漁場環境調査編	姫島村・豊後高田市	2	水産振興課
H27.10.30	豊の活ブリ研究会 (かぼすブリ技術指導)	県漁協本店	13	豊の活ブリ研究会
H27.11.4	豊後高田市立香々地中学校「社会見学」	浅海チーム	27	豊後高田市立香々地中学校
H27.11.27	内水面養殖及びカワウ駆除等	内水面チーム	11	下筑後川漁協

(1) 講習会、研修会等の開催 (2/2)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27.11.30	H27年度ナルトビエイ生態調査結果報告	山口市	16	山口県水産研究センター
H27.12.11	大分県漁業者連絡協議会漁船漁業部会勉強会 (タチウオの資源調査とマアジの資源生態)	大分市	10	大分県漁業士連絡協議会漁船漁業部会
H27.12.15	平成27年度養殖講習会 (講演タイトル: トラフグ肝臓の肉芽腫について)	県漁協下入津支店	18	大分県水産養殖協議会トラフグ養殖部会
H27.12.16	ノリのバリカン症状と生長遅滞要因	県漁協中津支店	12	県漁協中津支店
H27.12.21	平成27年度あさり勉強会	東京都	54	東京海洋大学
H28.1.9	別府湾における漁獲物の変遷	別府市	26	別府湾漁業青年協議会
H28.2.1	第1回豊後水道北部海面利用地区協議会 (豊後水道北部海域におけるマアジの資源生態)	白杵土木事務所	10	中部振興局
H28.2.9	ガザミの種苗放流後の追跡調査とイラストマー標識の有効性の検討	別府市	43	公益社団法人大分県漁業公社
H28.2.12	二重網を用いたアサリ稚貝保護・育成技術の検討	別府市		東国東漁業青年協議会
H28.2.12	①アオナマコ及びクロナマコの成熟度調査 ②放流追跡調査	別府市		東国東漁業青年協議会
H28.2.13	別府湾における漁獲物の変遷	別府市	26	別府湾水産振興協議会
H28.2.15	青年漁業士育成講座	浅海チーム	7	水産振興課
	魚はとりながら増やせるか？			
	種苗生産・栽培漁業～マナマコの種苗生産・放流技術開発～			
H28.2.18	ガザミの種苗放流後の追跡調査とイラストマー標識の有効性の検討	別府市	11	豊前海水産振興協議会
H28.2.20	小型びき網漁業者検討会	宇佐市 JF宇佐支店	20	水産振興課
H28.2.20	アサリ漁業者検討会	宇佐市 (JF宇佐支店)	20	大分県漁協
H28.2.25	キジハタ・オニオコゼの共同研究報告会	姫島村	33	水産振興課
H28.2.25	大分県漁業学校(漁業座学:魚類生態学)	姫島村	2	水産振興課
H28.2.26	大分県漁業学校(クルマエビ養殖版)海洋環境学	豊後高田市	2	水産振興課
H28.3.4	佐賀関一本釣りと臼津まき網漁業との調整会議	白杵土木事務所	30	漁業管理課
H28.3.7	平成27年度の外来魚の駆除試験	ホルトホール大分	44	水産振興課
H28.3.7	平成27年度のカワウの調査結果と漁協のカワウ対策	ホルトホール大分	44	水産振興課
H28.3.8	平成27年度ノリ漁期の総括	県漁協中津支店	10	北部振興局
H28.3.8	平成27年度のカワウの調査結果	大分市下徳丸 大野川防災センター	21	大野川漁協
H28.3.12	タチウオ漁業者検討会 (タチウオの資源調査について)	大分市	25	県漁協本店
H28.3.15	県漁協下入津支店青年部視察研修	豊後高田市 浅海チーム	6	県漁協下入津支店 青年部
H28.3.16	下入津かぼすヒラメ生産組合勉強会	県漁協下入津支店	10	南部振興局
H28.3.17	平成27年度第3回中津干潟を元気にする検討会	中津市	33	中津干潟を元気にする会
H28.3.17	平成27年度南部漁業青年協議会 (大分県沿岸におけるマアジの資源生態)	南部振興局	23	南部振興局
H28.3.18	賛助会員懇談会 (最近の魚病発生状況について)	県漁協佐伯支店	12	大分県水産養殖協議会
H28.3.18	大分県水産養殖協議会青年部会講習会	JF大分佐伯支店	37	水産養殖協議会
H28.3.18	大分県水産養殖協議会青年部総会 (カボスによる養殖魚への効果について)	県漁協佐伯支店	40	大分県水産養殖協議会
H28.3.23	大分県カキ類養殖生産者協議会設立会議	県庁本庁舎81会議室	34	漁業管理課
H28.3.24	大分県漁協女性部白杵支部視察研修(シラスについて)	水産研究部	10	中部振興局

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	10	49
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	3	40
海外研修者	2	22
その他	20	101
総計	35	212

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
「かぼすプリ」のブランドの確立と更なる増産	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぼすプリ」は柑橘系養殖魚のブランド魚として、県内外に知られ需要も急増している。今後の確固たるブランドの確立と、さらなる増産のため、以下の検討を行う。 ・かぼす果皮パウダーは、量産がほぼ可能となったが、製造時期により効果成分に違いがあると思われるため、製造時期を検討する。 ・柑橘系養殖魚は他県でも類似品が出始めている。ブランド化・他県との差別化をより明確にするため、カボス投与の効果の数値化を進める。 ・市場から、通常よりも早期(夏季)のかぼすプリ出荷の要望が出ており、その試験を行う。 	<p>①果皮パウダー製造時期の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度収穫10月製造と12月製造の果皮パウダーを投与し比較した。血合筋褐変の延長時間は10月で31時間、12月で51時間となり、予想に反して、収穫時期が早いほど効果が高いというわけではなかった。 <p>②かぼす投与効果の数値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果皮パウダー投与のかぼすプリについて、背身、腹身、血合筋、肝臓の4部位のカボス由来の香り成分(リモネン)を検査した。 ・リモネンは血合筋で最も多く検出された。血合筋は臭みが出やすい部位であり、この匂いを抑えていることが検証され、販売のセールスポイントとなることが期待される。 ・生産者における血合筋の褐変遅延効果は16～37時間で、全ての業者で10時間以上の効果を確認した。 ・香り成分(リモネン)についても0.16～1.4mg/100g検出し、効果を確認した。 <p>③早期生産技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の果皮投与魚を検査したが、現在の基準である25回投与で、血合筋の褐変遅延効果を確認し、香り成分も検出できた。研究部においても血合筋の褐変遅延効果を確認し、香り成分は検査中である。以上から、販売時期を現在より2～3ヵ月(8～9月)早めても可能であると判断した。 ・当結果から、販売を2ヵ月早め、初めて9月にかぼすプリが販売されることになった。(9月20日～九州イオンフェア) <p>平成27年度「かぼすプリ」生産量は、2月末現在で、387tと推定されている(水産振興課データ)。</p>
ヒジキ増殖技術の確立と普及	<p>ヒジキ採取量は増加傾向にあるが、過剰漁獲による資源の減少が懸念される。そこで、現場でできる増殖手法として、安価な建材ブロック等を基質とした増殖手法を開発しその普及を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の現地試験から、至適水深を把握できたので、今年度も同様の水深帯での基質(建材ブロック)の設置を行った。 ・国見の1月の観察では、着生密度、生長ともに良好で、昨年度設置分は全長75cm、今年度分も65cmまで生長していた。 ・国東と武蔵では、1月の観察で、確実な着生が確認でき、全長は30cm程度になっていた。 ・姫島では潮汐のタイミングがあわず、今期は現地の確認ができていない。 ・佐伯市米水津の2カ所のヒジキは、全長10～40cmに伸長していた。 <ul style="list-style-type: none"> ・国東羽田海岸投石場(沿振特実施)では2季目となり、実験区ヒジキの全長は95cmに達していた。対照区でのヒジキ繁茂は確認できなかったことから、移植の効果を確認できた。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX番号
農林水産研究指導センター（本部）	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
○農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤峰2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦3456	0972-82-2837	0972-82-5322
ナシ・ブドウチーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
○畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
○林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原35	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺2369	0974-22-4236	0974-22-6850
○水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
浅海・内水面グループ	879-0608	豊後高田市呉崎3386	0978-22-2405	0978-24-3061
内水面チーム	872-0504	宇佐市安心院町荘42	0978-44-0329	0978-34-4050

平成27年度
大分県農林水産研究指導センター業務年報

平成28年7月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052